t.c. electronic
ULTIMATE SOUND MACHINES

G•MAJOR

GUITAR PROCESSOR

ユーザーマニュアル

目次

はじめに

- 目次 3
- はじめに 5
- フロントパネル 6
- リアパネル 8
- シグナルフロー 9
- G•MAJORの接続 10
- ディスプレイ 12

プリセット操作 13

- RECALL *呼び出し* 14
- EDIT *編集* 14
- STORE *保存* 15
- MIDIを経由したプリセットのバックアップ 15

セットアップ

- I/O *入出力設定* 16
- MIDI/UTIL *MIDI及びユーティリティー* 17
- MIDIマッピング 19

その他の機能

- チューナー 20
- LEVELS ALL & RELAY 1+2 21
- ROUTING *ルーティング* 22
- チャンネル・スイッチング 23
- タップ・テンポ 24

G•MAJORの外部コントロール 24

- MODメニュー 24
- モディファイアー 26
- モディファイアーの割り当て 26

ハウツー集 28

エフェクトについて 29

搭載エフェクトリスト 29

エフェクト

- NOISE GATE *ノイズゲート* 30
- EQ *イコライザー* 31
- COMPRESSOR *コンプレッサー* 32
- CHORUS *コーラス* 33
- FLANGER *フランジャー* 35
- VIBRATO *ビブラート* 37
- RESONANCE FILTER *レゾナンス・フィルター* 38
- PHASER *フェーザー* 39
- TREMOLO *トレモロ* 40
- PANNER *パンナー* 40
- DELAY *ディレイ* 41
- DETUNE *ディチューン* 44
- WHAMMY *ワーミー* 44
- OCTAVER *オクターバー* 45
- PITCH SHIFTER *ピッチ・シフター* 45
- REVERB *リバーブ* 46

付録

- 安全のために 50
- MIDIインプレメンテーション 52
- 仕様及び性能 53
- プリセット・リスト 54

はじめに

この度は、エフェクト・プロセッサー「G•MAJOR」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。これまでマルチエフェクト・プロセッサーを使用した経験のない方は、G•MAJORを使いこなすまでに、いったいどれほどの日数が必要なのか不安に思っておられるかもしれません。しかし、心配は無用です！内蔵のプリセットは基本的なニーズの多くをカバーしているため、G•MAJORはわずか数分で使えるようになります。またファクトリー・プリセットでは満足できず、G•MAJORを自分なりにアレンジして使いたい人にとっても、難しい操作はありません。

G•MAJORをどの様に活用するかを考えた場合、いくつかの可能性が考えられます。

コンパクト・エフェクト風の活用法

コンパクト・エフェクトを使い慣れている人は、各種エフェクトの設定自体は変更せず、エフェクトのON/OFFの組み合わせでサウンドに変化をつける方法が一番自然と感じられるかもしれません。G•MAJORの搭載する7種類のエフェクトを、MIDIフットコントローラーなどから個別にON/OFFすることが可能です。この使い方はG•MAJORで可能になることの一部でしかありませんが、G•MAJORのサウンド・クオリティを存分に活用できます。

プリセットの活用法

MIDIフットコントローラーから、各種エフェクトの設定自体を変えることも可能です。またプリセットを作る方法と、上記のON/OFF方式とを併用する方法もあります。

チャンネル・スイッチング

クリーンなバッキング用のサウンドから、歪んだリード系のサウンドに音を変更したい場合、一般的にはアンプ側でクリーン／歪みのスイッチングを行います。G•MAJORは、内蔵のリレー・スイッチング機能により、プリアンプ／コンボ・アンプのチャンネルが切り替えられるため、高額な投資を必要とせずに、アンプのスイッチングと高品位なエフェクトを統合します。

モディファイアー — リアルタイムのパラメータ操作

設定の切り替えだけでは満足を得られず、リアルタイムにエフェクトを変化させたい場合、G•MAJORのモディファイアー機能を使用します。外部MIDIコントローラーやエクスプレッション・ペダルに対して、エフェクトのパラメータを割り当てることができます。エクスプレッション・ペダルからエフェクトのレベルやパンニング・スピードを変更したり、音程を変化させることにより、一般的に「ワーミー」と呼ばれる効果などが得られます。

G•MAJORの基本的な構造

プリセット

G•MAJORは、フロントパネル中央にある6つのエフェクトとノイズゲートで、合計7種類のエフェクトを組み合わせて一つの混合エフェクトを作ります。エフェクトの接続順、各エフェクトの設定、そしてペダルを踏み込んだ時にどの様に音が変わるか、などの設定を含めたものを「プリセット」と呼びます。工場出荷時には、100のファクトリー・プリセットが用意されています。ユーザーがこれらファクトリー・プリセットに変更を加えたもの、あるいは一から作成して保存されたプリセットは、「ユーザー・プリセット」と呼ばれます。

エフェクト／エフェクト・ブロック

一つのプリセットは、エフェクトの組み合わせで構成されます。フロントパネル中央部分にあるボタンが各エフェクトの種類を示しますが、これら一つ一つを「エフェクト・ブロック」と呼びます。エフェクト・ブロックは個別にON/OFFできます。エフェクト・ブロックの接続順は、プリセットに保存されます。

パラメータ

各エフェクト・ブロックは、一つのコンパクト・エフェクトの様に、いくつかの要素をコントロールすることができます。たとえば、トレモロの効果を得る場合には、トレモロのスピード、かかり具合の深さ、出力レベルなどが調節できます。これらの、コンパクト・エフェクトでいえばツマミにあたる調節可能な要素のことを「パラメータ」と呼びます。コンパクト・エフェクトの種類によりツマミの数と内容が違うのと同様、G•MAJORの各エフェクトには幅広いパラメータが準備されています。パラメータの設定値は、プリセットに保存されます。

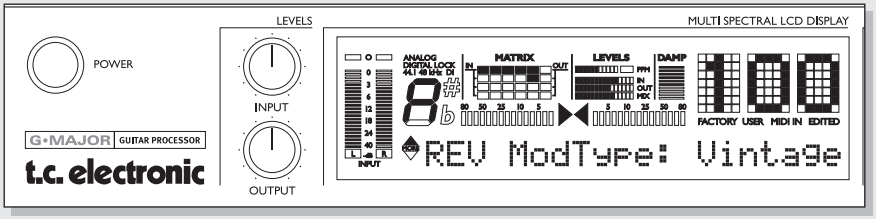
アルゴリズム

エフェクトには、用途と種類によって、サウンドとパラメータの異なる複数の「アルゴリズム」を持っている場合があります。例えば、ディレイのエフェクトは、ピンポン／ダイナミック／デュアルの3種類のアルゴリズムから一つを選択できます。選択するアルゴリズムにより、得られる効果と調節できるパラメータは異なります。エフェクト・ブロックは一つの分類であり、複数のアルゴリズムに細分化されているとお考えいただければ分かりやすいかもしれません。

まずは、駆け足で基本的な構造をご理解いただく上で必要になる用語を解説いたしましたが、実際の操作は是非音を出しながらお楽しみください。

G•MAJORを、貴方の信頼のおけるパートナーとしてご活用いただければ幸いです。

フロントパネル



POWER ボタン
電源を ON/OFF します。

INPUT ツマミ
入力レベルを調節します。
レンジ：0～24dBu

OUTPUT ツマミ
出力レベルを調節します。
レンジ：0～24dBu

INPUT メーター
入力レベルを示すピーク・メーターです。メーターのレンジは、0、-3、-6、-12、-18、-24、-40dB です。

入力オーバーロード LED
この LED は、次のいずれかの状態にあることを示します。
- 過大入力レベルによるオーバーロード
- DSP 内部処理のゲイン増幅等によるオーバーフロー

入力タイプ表示：ANALOG、DIGITAL
使用入力端子を選択するには、I/O ボタンを押して I/O セクションに入ります。

ANALOG：アナログ入力が選択されていることを示します。
DIGITAL LOCK：デジタル入力の選択時に、外部クロックにロックしていることを示します。
44.1/48kHz：デジタル入力のクロックにロックしている時の周波数を示します。

G·MAJOR のデジタル入力端子にデジタル機器が接続されていてもロックが正常に行われていない場合、DIGITAL LOCK が点滅します。

DI LED：外部デジタル・クロック入力を選択していることを示します。

チューナー・セクション
G·MAJOR は、チューナーを内蔵しています。チューナーは常に作動します。チューニングが合っているときは両方の矢印が点灯します。

MATRIX
G·MAJOR では、エフェクトの内部接続形態をシリアル／セミ・パラレル／パラレルの 3 種類から選択できます。MATRIX 表示は、選択されているルーティングの構造を示します。

LEVELS セクション
編集しているブロックに関する表示を行います。

PPM（ピーク・プログラム・メーター）：現在編集しているエフェクト・ブロックのピーク・レベルを示します。
IN メーター：入力レベルを示します。
OUT メーター：出力レベルを示します。
MIX メーター：ミックス・レベルを示します。

DAMP
ノイズゲート作動時にはノイズのカット量を、コンプレッサー作動時にはコンプレッションの量を示します。

プリセット番号表示
プリセット番号を表示します。番号が点灯している場合は、プリセットが選択されていることを表示します。プリセットの変更時には数字が点滅し、RECALL ボタンを押すと選択が確定します。

EDITED
現在呼び出されているプリセットに変更が加えられると、この LED が点灯します。

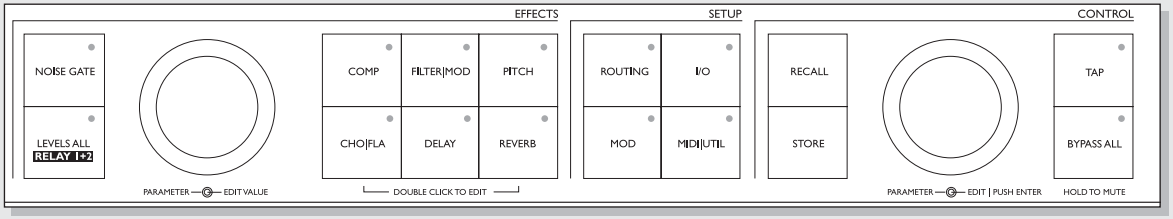
FACTORY/USER
使用しているプリセットのバンクを表示します。ファクトリー・プリセットは書き換え不可、ユーザー・プリセットは書き換え可能です。

MIDI IN
MIDI 信号が入力された際に点灯します。

EFFECTS セクション

EFFECTS/PARAMETER ホイール（外側）、及び EFFECTS/EDIT VALUE ホイール（内側）
各エフェクト・ブロックから、それぞれ一つの主要パラメータを操作します。外側の PARAMETER ホイールは、編集するパラメータの選択に使用します。 EDIT VALUE ホイールは、選択したパラメータの値変更に使用します。

フロントパネル



EFFECTS セクションのボタンについて
クリックでエフェクトの ON/OFF を行います。ダブル・クリックで選択エフェクトの編集メニューに入ります。LED ボタンが点灯していれば、エフェクト・ブロックがアクティブであることを示します

NOISE GATE ボタン
ノイズゲートを ON/OFF します。

LEVELS ALL/RELAY 1+2
全体のレベル設定、及びコンボ／ヘッドやプリアンプなど外部機器のチャンネル切り替えを行うための 2 つのリレー・スイッチに関するパラメータを表示します。

COMP ボタン
コンプレッサーを ON/OFF します。

CHO/FLA ボタン
コーラス／フランジャーを ON/OFF します。

FILTER/MOD ボタン
フィルター／モジュレーションを ON/OFF します。

DELAY ボタン
ディレイを ON/OFF します。

PITCH ボタン
ピッチを ON/OFF します。

REVERB ボタン
リバーブを ON/OFF します。

ROUTING ボタン
エフェクトの内部接続順を設定します。

MOD ボタン
MOD とは「モディファイアー」の略で、G·MAJOR のパラメータをフットコントローラーなどの外部機器からコントロールする際に、どのパラメータをコントロールするか等の設定を行います。

I/O ボタン
I/O とは「INPUT/OUTPUT」の略で、G·MAJOR の入出力に関する設定を行います。

MIDI/UTIL ボタン
MIDI やその他の一般的な設定に関するパラメータを設定します。

RECALL ボタン
プリセットの呼び出し操作を行います。RECALL ボタンを一度押した後、EDIT ホイールでプリセットを選択し、ENTER ボタンあるいは RECALL ボタンを押すと、指定したプリセットを呼び出します。

STORE ボタン
プリセットの保存操作を行います。STORE ボタンを一度押した後、EDIT ホイールで保存先を選択し、ENTER ボタンを押すと、指定したプリセットを保存します。

ENTER ボタンを押す前に、プリセットの名称を指定／変更できます。PARAMETER ホイールで文字の位置を選択し、VALUE ホイールで文字を選択します。入力が完了した時点で、ENTER ボタンを二度押すと、プリセットを保存します。

CONTROL/PARAMETER ホイール（外側）、CONTROL/EDIT ホイール（内側）および ENTER ボタン（押すと ENTER ボタンとして機能）
2 つのホイールは、本体の設定とエフェクト内容に関連する操作に使用します。

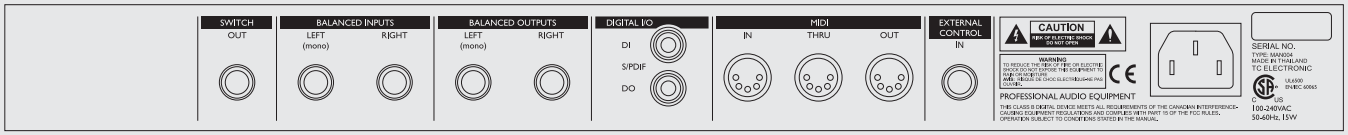
CONTROL/PARAMETER ホイールはパラメータの選択に、CONTROL/EDIT ホイールは値の変更に使用します。

CONTROL/EDIT ホイールにはボタンが内蔵されており、押すことができます。ボタンを押すと操作が確定します。

TAP ボタン
ボタンをタップすることにより、ディレイ等のテンポを指定できます。ボタンの LED は、現在のテンポに合わせて点滅します。

BYPASS ALL ボタン
すべてのエフェクトを一括してバイパスします。約一秒ボタンを押しつづけると、出力はミュートされ、ギターのチューニングなどが無音で行えます。

リアパネル



SWITCH OUT リレー ジャック

バランス 1/4" アナログ 入力

バランス 1/4" アナログ 出力

デジタル S/PDIF 入出力

MIDI In/Out/Thru

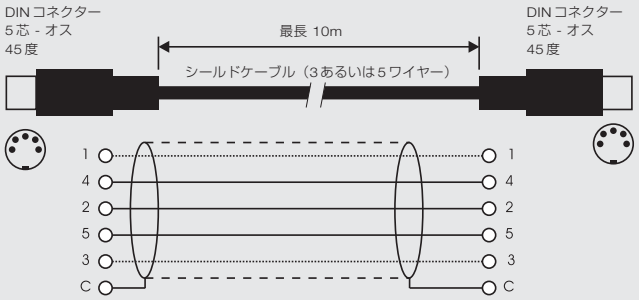
外部 コントロール

電源 入力

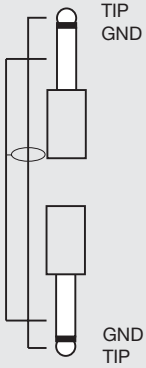
ご注意

G·MAJORのアナログ入出力ジャックはバランス式の1/4インチ・ジャックです。バランス式の機器を最適に接続するには、バランス・ケーブルを使用してください。とはいえ大半のギター装置はバランス式でないため、通常は下に示すモノラル−モノラルの標準ケーブルを使っても問題ありません。

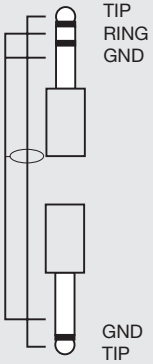
MIDI Cable



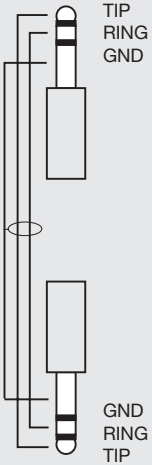
ジャック・ケーブル
モノラル−モノラル



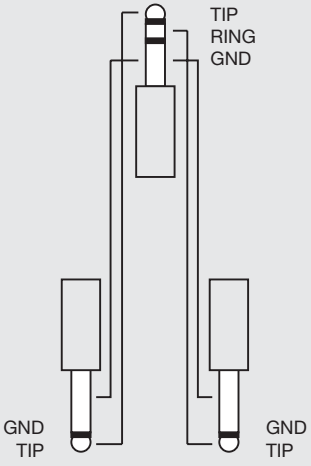
ジャック・ケーブル
ステレオ−モノラル



リレー・ジャック・ケーブル
ステレオ・ジャック・タイプ

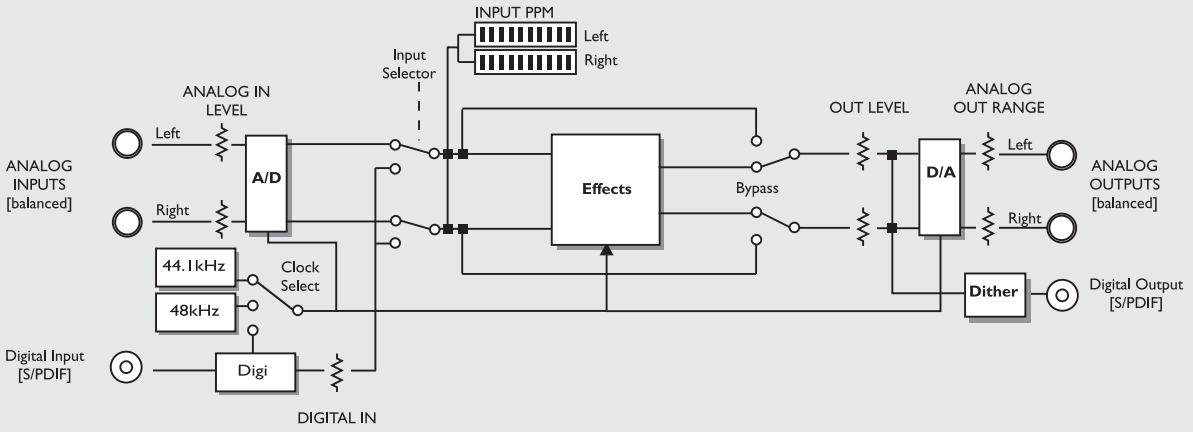


リレー・ジャック・ケーブル
Yスプリッター・タイプ



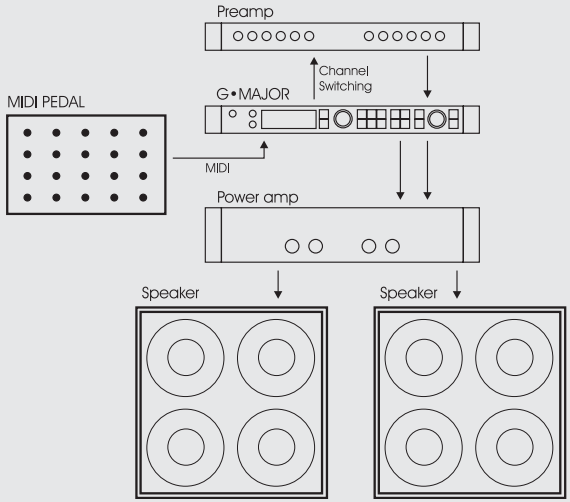
シグナルフロー

G•Major



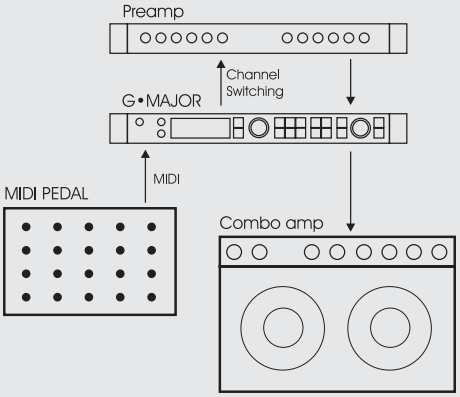
G•MAJORの接続

ギタリストのセットアップは、多様に渡ります。このページでは、一般的なセットアップをいくつかご紹介します。音全体がG•MAJORを通過する、直列の接続方法をお勧めいたします。この設定では、G•MAJORの搭載するエフェクト全てのメリットをフルに活用できます。TCエレクトロニック製品は、高品位なコンバーターを採用しているため、トーンを損なうことなくエフェクトを挿入できます。



プリアンプとパワー・アンプを使用した、直列のセットアップ

- プリアンプの出力を、G•MAJORの入力に接続します。
- G•MAJORの出力を、パワー・アンプの入力に接続します。
- G•MAJORからプリアンプのチャンネルを切り替えるには、G•MAJORのリレー・スイッチ（SWITCH）端子からプリアンプのチャンネル・スイッチ端子に接続します。

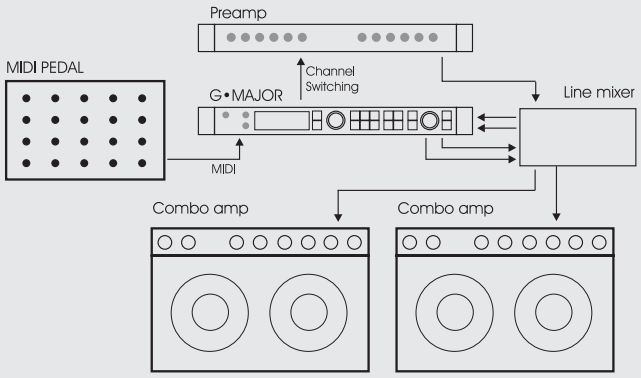


プリアンプとコンボ・アンプを使用した、直列のセットアップ

- プリアンプの出力を、G•MAJORの入力に接続します。
- G•MAJORの出力を、コンボ・アンプの通常の入力またはループ・リターン入力に接続します。
- G•MAJORからプリアンプのチャンネルを切り替えるには、G•MAJORのリレー・スイッチ（SWITCH）端子からプリアンプのチャンネル・スイッチ端子に接続します。

コンボ・アンプのエフェクト・リターンを使用したセットアップは、上記「プリアンプとパワー・アンプを使用した直列のセットアップ」に近い状態となります。コンボ・アンプの通常の入力を使用すると、コンボ・アンプ側のトーン・コントロールなどを使用できるダブル・プリアンプのセットアップとなります。一般的に、ダブル・プリアンプのセットアップは、エフェクト・リターンを使用する場合に比べてノイズ量が増えますが、Vox AC 30やFender Bassman等との組み合わせで最近ポピュラーになりつつある接続方法です。

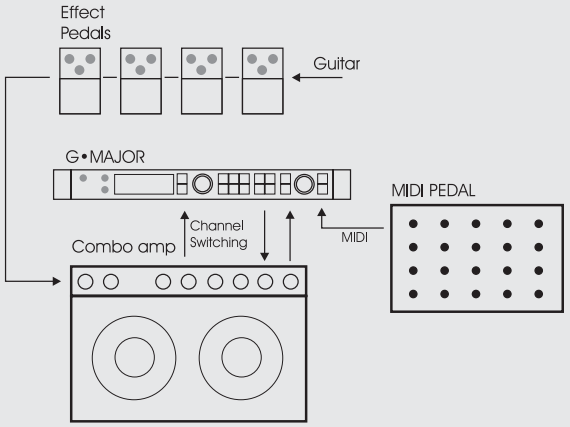
G•MAJORの接続



ライン・ミキサーを使用した、並列のセットアップ

- プリアンプの出力とライン・ミキサーの入力を接続します。
- G•MAJORからプリアンプのチャンネルが切り替えられる様、G•MAJORのリレー・スイッチ端子とプリアンプのチャンネル・スイッチ端子を接続します（ただしMIDIプリアンプは除きます）。
- ライン・ミキサーのループ出力とG•MAJORの入力を、G•MAJORの出力とライン・ミキサーのループ入力を、それぞれ接続します。
- ライン・ミキサーのメイン出力をアンプに接続します。

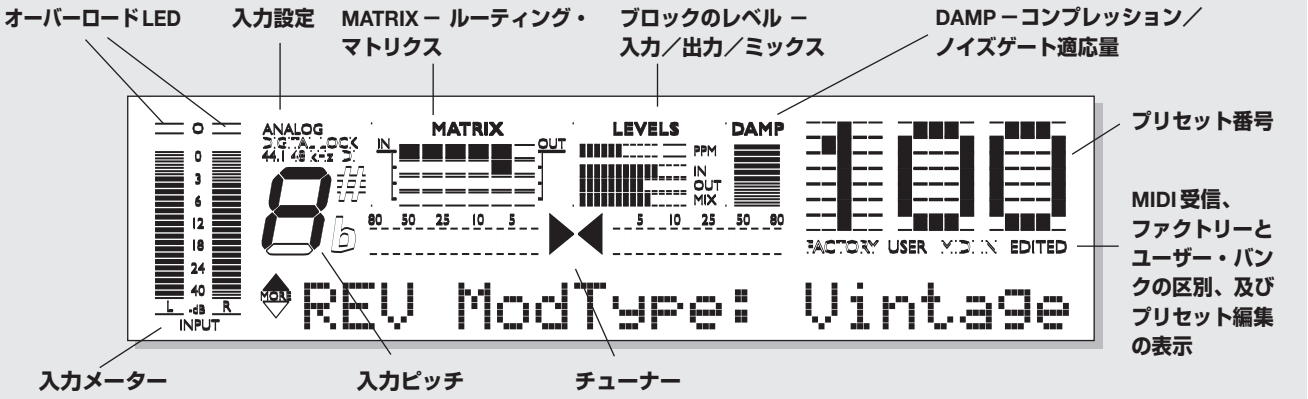
左の図ではコンボ・アンプが描かれていますが、このほかにパワー・アンプが使われる場合もあります。またプリアンプは、簡単にコンボ・アンプのプリアンプ部分として使用することができます。



通常のエフェクト・ペダル、G•MAJOR、およびMIDIペダルを組み合わせたセットアップ

- コンボ・アンプのエフェクト・ループ出力とG•MAJORの入力を接続します。
- G•MAJORの出力とエフェクト・ループ入力を接続します。
- ギターをペダルに、ペダルをコンボの入力に、いつものように接続します。
- G•MAJORのプリセットを切り替えたい場合は、プリアンプやコンボ・アンプのチャンネル切り替えを含め、MIDIペダルをG•MAJORに接続し、リレー・スイッチング機能を有効にすることが必要です。

ディスプレイ



ディスプレイ

INPUT - 入力メーター

入力レベルを示すピーク・メーターです。
メーターのレンジは、0、-3、-6、-12、-18、-24、-40dBです。

入力レベルの設定方法

プリアンプなど、G•MAJORに音を供給する装置で最もダイナミックな内容をもつ最大の音を選択します。その音はおそらく明瞭な音でしょう。G•MAJORの入力レベルを調整して、-3dBのLEDが頻繁に点滅し、かつ-0dBのLEDが絶対的な最高レベルで点滅するようにします。

入力オーバーロードLED

このLEDは、次のいずれかの状態にあることを示します。

- 過大入力レベルによるオーバーロード
- DSP内部処理のゲイン増幅等によるオーバーフロー

入力オーバーロードLEDは、1サンプルが0dBFSに到達した際に点灯します。

G•MAJORに音を供給する装置において出力を絞るか、またはINPUT LEVELツマミを使ってG•MAJORの入力ゲインを落とします。

ANALOG、DIGITAL - 入力設定

使用入力端子を選択するには、I/Oボタンを押してI/Oメニューに入ります。

ANALOG

アナログ入力が選択されていることを示します。

DIGITAL LOCK

デジタル入力の選択時に、外部クロックにロックされていることを示します。

44.1/48kHz

現在のクロック・レートを示します。

G•MAJORのデジタル入力端子にデジタル機器が接続されていてもロックが行われない場合に、DIGITAL LOCKが点滅します。その場合、ケーブルおよび接続先装置のクロック・レートをチェックしてください。

チューナー

G•MAJORは、チューナーを内蔵しています。チューナーは常に作動します。チューニングが合っているときは両方の矢印が点灯します。TC ELECTRONIC G•MINOR MIDIペダル（オプション）を使用している場合、チューナーはペダルにも表示することができます。

MATRIX - ルーティング・マトリクス

G•MAJORには、エフェクトの内部接続順として3種類の選択肢があります。マトリクス表示は、この三つのどれが選択されているかを示します。

内部接続順の変更については、ページ22「ルーティング」のセクションをご参照ください。

ディスプレイ

LEVELS セクション
編集しているブロックに関連した表示を行ないます。

PPM（ピーク・プログラム・メーター）
現在編集しているエフェクトのピーク・レベルを示します。

IN メーター
編集しているエフェクトの現在の入力レベルを示します。

OUT メーター
編集しているエフェクトの現在の出力レベルを示します。

MIX メーター
編集しているエフェクトのミックス・レベルのパラメータ位置を示します。

DAMP - コンプレッション／ノイズゲート適応量
ノイズゲートとコンプレッサーが共に使用状態にあるとき、ノイズゲート作動時にはノイズのカット量を、コンプレッサー作動時にはコンプレッションの量を示します。

プリセット番号表示
プリセット番号を表示します。プリセットの変更時には数字が点滅し、RECALL ボタンを押すと点滅が点灯へと変わり、選択が確定します。

EDITED
現在呼び出されているプリセットの内容が変更され、変更後の設定がまだ保存されていないときにこの LED が点灯します。

FACTORY、USER
編集しているプリセット・バンクがファクトリーかユーザーかを示します。

プリセット操作

プリセット操作

G•MAJOR は、フロントパネル中央にある 6 つのエフェクトとノイズゲート +EQ で、合計 8 種類のエフェクトを組み合わせて一つの混合エフェクトを作ります。エフェクトの接続順、各エフェクトの設定、そしてペダルを踏み込んだ時にどの様に音が変わるか、などの設定を含めたものを「プリセット」と呼びます。工場出荷時には、100 のファクトリー・プリセットが用意されています。ユーザーがこれらファクトリー・プリセットに変更を加えたもの、あるいは一から作成して保存されたプリセットは、「ユーザー・プリセット」と呼ばれます。

プリセットの種類

ユーザー・プリセット（RAM）
変更ができ、好きなユーザー保存位置に保存することができます。ユーザー・バンクには最大 100 種類のユーザー・プリセットが保存できます。

ファクトリー・プリセット（ROM）
G•MAJOR には 100 種類のファクトリー・プリセットが備わっています。

ファクトリー・プリセットに変更を加えた設定は、好きなユーザー保存領域に保存することができますが、ファクトリー保存領域には保存できません。

プリセット操作 RECALL & EDIT

RECALL – プリセットの呼び出し

「プリセットの呼び出し」とは、G•MAJORの設定を、すでに存在するプリセットの内容に変更することを指します。

プリセット呼び出しの手順

- RECALLボタンを押します。
- CONTROL/EDITホイールを使ってプリセットを選びます。プリセット番号が点滅している状態は、これから呼び出すプリセット番号の指定途中であることを示し、点滅状態のプリセット番号の設定はまだ本体に反映されていません。
- CONTROL/PARAMETERホイールで、ファクトリー／ユーザー・バンクを選びます。
- ENTERボタンまたはRECALLボタンを押すと、本体の設定がプリセット内容に切り替わります。（ENTERボタンはCONTROLセクションにある内側のホイールです）。

操作を中断して現在呼び出されているプリセットに戻るには、プリセット番号の点滅中に、他のいずれかのボタンを押します。

プリセット選択中の状態と接続形態について：現在使用している接続形態とは異なる接続形態をもつプリセットを選ぶと、ENTERを押すまでの間、接続形態／MATRIXのLEDが点滅します。

EDIT – プリセットの編集

「プリセットの編集」とは、呼び出したプリセットの設定内容に変更を加えることを指します。

一つのプリセットは、エフェクトの組み合わせで構成されます。フロントパネル中央部分にあるボタンが各エフェクトの種類を示しますが、これら一つ一つを「エフェクト・ブロック」と呼びます。エフェクト・ブロックは、それぞれのボタンを押すことにより、個別にON/OFFできます。

各エフェクト・ブロックは、一つのコンパクト・エフェクトの様に、いくつかの要素をコントロールすることができます。たとえば、トレモロの効果を得る場合には、トレモロのスピード、かかり具合の深さ、出力レベルなどが調節できます。これらの、コンパクト・エフェクトでいえばツマミにあたる調節可能な要素のことを「パラメータ」と呼びます。コンパクト・エフェクトの種類によりツマミの数と内容が違うのと同様、G•MAJORの各エフェクトには幅広いパラメータが用意されています。

プリセット編集の手順

- 編集したいエフェクトのボタンをダブルクリックします。
- CONTROL/PARAMETERホイールを使ってパラメータを選択し、CONTROL/EDITホイールを使って値を変更します。
- プリセットの保存方法については次のセクションの説明をお読みください。

プリセット操作 STORE & BACKUP

STORE – プリセットの保存

編集したプリセットは、新しい設定でユーザー・プリセット領域に保存することができます。

プリセットを、同じ名前で保存する場合の手順

- STOREボタンを押します。
- ファクトリー・プリセットに変更を加えたものを保存する場合、自動的に、ユーザー・プリセット領域の、一番始めの空領域が表示されます。CONTROL/EDITホイールを使って保存先を選択します。
- ENTERボタンを二度押すとプリセットが保存されます。

プリセットの名前を変更して保存する場合の手順

- STOREボタンを押します。
- ファクトリー・プリセットに変更を加えたものを保存する場合、自動的に、ユーザー・プリセット領域の、一番始めの空領域が表示されます。CONTROL/EDITホイールを使って保存先を選択します。
- ENTERボタンを一度押します。
- CONTROL/EDITホイールを使って保存先を選択します。
- プリセット名を変更するには、CONTROL/PARAMETERホイールを使ってカーソルを移動させ、CONTROL/EDITホイールで文字を選択します。
- ENTERボタンを二度押すとプリセットが新しい名前で保存されます。

MIDIを経由したプリセットのバックアップ

MIDI経由で、シーケンサーまたは別のG•MAJORに、ユーザー・プリセットの設定内容全体をバックアップすることができます。ユーザー・プリセットの設定内容を送信することを、「バルク・ダンプ」と呼びます。

MIDI経由でのバルクダンプの手順は以下の通りです。

- G•MAJORのMIDI Outを別のG•MAJOR、またはシーケンサーのMIDI Inに接続します。
- MIDI/UTILボタンを押し、CONTROL/PARAMETERホイールでBulk Dumpを選択します。
- 別のG•MAJORに接続しているときは、ENTERボタンを押すだけで全ユーザー・プリセットの設定内容が接続先のG•MAJORにコピーされます。
- シーケンサーにバルク・ダンプを行う場合は、シーケンサーをOMNIモード（全チャンネル）で記録状態にし、G•MAJORのENTERボタンを押します。

ダンプ元装置のMIDI OutをG•MAJORのMIDI Inに接続するだけで、G•MAJORは、MIDIのバルク・ダンプをいつでも受信することができます。シーケンサーからG•MAJORにダンプするときは、バルク情報をもつシーケンサーをそのまま演奏します。G•MAJORからダンプする方法については、上の説明をご覧ください。

I/O – 入出力設定

I/O メニューは、使用する入力設定、アナログ／デジタル、ステータスビット、ディザー等、本体の入出力に関する設定を行うためのメニューです。

I/O メニューのパラメータは本体全体の動作に関連するもので、ここでの設定内容はプリセットの一部としては保存されません。

基本操作

- I/O ボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETER ホイールでパラメータを選択します。
- CONTROL/EDIT ホイールで値を選択します。

Input - 入力

設定レンジ： Analog／Digital

アナログ／デジタル入力を切り替えます。

Analog	アナログ入力を使用します。 G•MAJOR は自動的に 44.1kHz に切り替わります。
Digital	デジタル入力を使用します。G•MAJOR は S/PDIF 入力信号からサンプルレートを検知しに行きます。サンプルレートの検出作業中は出力がミュートされ、LOCK アイコンが点滅してロックしていないことを示します。ロックが完了すると LOCK アイコンが点灯し、出力のミュートも解除されます。

Clock - クロック

設定レンジ： 44.1kHz／48kHz／Digital

次のサンプルレートが使用できます。G•MAJOR では、先の Input パラメータで選択する音声の入力端子と、デジタル・クロックの設定が独立して行えます。

44.1kHz	内部 44.1kHz で作動します。
48kHz	内部 48kHz で作動します。
Digital	S/PDIF 端子に入力されたクロックで作動します。

内部クロックを使用時にデジタル入力を選択する場合、接続元のクロックが G•MAJOR の内部クロックに同期していないとスリップサンプルによるノイズが発生します。ご注意ください。

Rate Mismatch

G•MAJOR がスリップサンプルの発生を検出すると、上記のエラー・メッセージが表示されます。通常、このメッセージは、G•MAJOR を内部クロックで使用時に、入力されたデジタル信号が同期していない場合に表示されます。

Dig InGain - デジタル入力ゲイン

設定レンジ：-100dB ～ +6dB

デジタルの入力レベルを設定します。アナログ入力のゲインは影響されません。

Dither - ディザー

設定レンジ： Off／20／16／8

高いビット解像度から低いビット解像度へデータを移動する場合のデジタル信号を最適化します。たとえば、24 ビットから 16 ビットにデータを変換する場合、8 ビットのデータが失われます。ビット数を純粋に省略することは「トランケーション」と呼ばれ、低レベルの信号に歪みをもたらします。ディザーは、少量のフィルターされたノイズで、ノイズフロア付近での信号をランダム化することにより、この歪みを軽減します。

ディザーは、デジタル出力にのみ関係します。本パラメータの適切な設定値は、接続先の受信デジタル機器に依存します。CD-R や一般的な DAT など、16 ビットの機器に接続する場合は、ここでの設定を 16 にします。

StatusBits - ステータスビット

設定レンジ： SPDIF／AES

デジタル出力のステータスビットを切り替えます。AES/EBU（プロフェッショナル用）と S/PDIF（コンスーマー用）を切り替えられます。

ステータスビットの設定は、信号の規格のみを変更します。音質やデータの解像度には影響しません。

Input Rng - 入力レンジ

設定レンジ： Consumer／Pro

入力のセンシティビティを切り替えます。ディフォルトの設定は「Pro」で、ほとんどのプリアンプとの組み合わせに適切な設定です。

Output Rng - 出力レンジ

レンジ： 2dBu／8dBu／14dBu／20dBu

アナログ出力段の最大ゲイン・レンジを設定します。

MIDI/UTIL – MIDI & ユーティリティー

MIDI／UTILメニューのパラメータは本体全体の動作に関連するもので、ここでの設定内容はプリセットの一部としては保存されません。

MIDI CHAN - MIDIチャンネル

設定レンジ：OFF／1～16／OMNI

G•MAJORのMIDI受信チャンネルを設定します。OMNIを選択すると、全チャンネルの入力に反応します。OFF選択時には、MIDI入力に反応しません。

MIDI PrGCH - MIDIプログラム・チェンジ

設定レンジ：ON／OFF

受信したMIDIプログラム・チェンジ情報に応答するべきかどうかを指定します。

Bulk Dump - バルク・ダンプ

ENTERを押すと、全ユーザー・プリセット内容のMIDIバルク・ダンプを行います。G•MAJORは、常時MIDIバルク・ダンプの受信を行えます。詳しくは、「MIDIを経由したプリセットのバックアップ」（15ページ）をご参照ください。

バルク・ダンプを使用する場合、必ず事前に「Send Tuner」パラメータをOFFに設定してください。「Send Tuner」パラメータは、同メニュー内にございます。

Prg bank - プログラム・バンク

設定レンジ：External／Factory／User／Custom

MIDIのプログラム・チェンジ情報に対して、選択されるバンクを指定します。

External	CC #32=0の場合にファクトリー・プリセット、CC #32=1の場合にユーザー・プリセットが呼び出されます。
Factory	ファクトリー・プリセットが呼び出されます。
User	ユーザー・プリセットが呼び出されます。
Custom	受信プログラム・チェンジ番号に対して、それぞれ異なるプリセット番号を呼び出します。詳細は、19ページ「MIDIマッピング」セクションをご参照ください。

SysEx ID - システム・エクスクルーシブID

本体のMIDIシステム・エクスクルーシブIDを指定します。

Pedal Type - ペダル・タイプ

設定レンジ：Exp/Vol／Momntary／Altrnate

外部コントロールの1/4インチ・ジャックに使用するペダル・タイプを設定します。エキスプレッション・ペダルと、モメンタリーとオルタネーティング・スイッチの合計3つの種類が選べます。

Exp/Vol	エキスプレッション・ペダル
Momntary	モメンタリー・タイプ（アンラッチ） ペダルを踏んでいる間のみTIPとGNDが接続されます。
Altrnate	オルタネーティング・タイプ（ラッチ） 一度押すと「接続されている」状態が保たれ、もう一度押すとOFFに戻るタイプのペダルです。

PedalCalib - ペダル・キャリブレーション

G•MAJORがエクスプレッション・ペダルの操作に正しく応答するには、G•MAJORを個々のペダルの特性に合わせてキャリブレーションを行う必要があります。

- ペダルを接続し、正しいペダル・タイプを選択します。
- PedalCalibを選択し、ENTERボタンを押します。
- ペダルをMax位置（ヒール・アップ）まで動かしてENTERボタンを押します。
- ペダルをMin位置（ヒール・ダウン）まで動かしてENTERボタンを押します。

使用するペダルのタイプに応じて、上記の3番と4番の手順を繰り返す様、指示される場合があります。

Tuner Ref - チューナー基準ピッチ

設定レンジ：420～460Hz

チューナーの基準ピッチを指定します。標準的な基準ピッチは、440Hzです。

Tuner Mode - チューナー・モード

設定レンジ：Coarse／Fine

チューニングは2種類の精度で行えます。

Fine	最高精度。ギターをより正確にチューニングするときはこのモードを選択します。
Coarse	精度はやや劣りますが、より素早いチューニングが行え、ライブ用途などに適しています。

Tuner Rnge - チューナー・レンジ

設定レンジ： Guitar／Bass／7str Gtr

チューナーのレンジを設定します。チューナーの精度はこのチューナー・レンジによって変わるため、チューニングしたい楽器に合わせて設定を行ってください。

Guitar	ギター
Bass	ベース
7str Gtr	7弦ギター

Send Tuner - チューナー・センド

設定レンジ： Off／On

G•MINOR使用時にこのパラメータをONにすると、チューナー情報がG•MINORに送信されます。

MOD Master - MODマスター

設定レンジ： Preset／Mod

モディファイアーという言葉をご存知ない方は、本マニュアルの「モディファイアー」のセクションをお読みください。G•MAJORのパラメータは、MIDIエクスプレッション・ペダルなどの外部コントローラーから操作できます。たとえばモディファイアーがプリセット出力レベルをコントロールするように設定されている場合、プリセットの変更時にG•MAJORがエキスプレッション・ペダルの位置に対してどう反応するか、このMOD Masterパラメータによって決めなくてはなりません。以下のいずれの値を選ぶかは、モディファイアーが何を行う／コントロールする様セットアップされているかに大きく依存します。

Preset（プリセットの設定値を適用）

PRESETに設定されていると、G•MAJORは外部コントローラーの位置を無視し、そのプリセットに保存されているモディファイアーの設定値をロードします。

Mod（モディファイアーの設定値を適用）

G•MAJORはプリセット変更がなされるたびに外部コントローラーの位置をチェックし、その位置に応じたパラメータ設定に変更します。そのため、モディファイアーにおける関連パラメータの値は無視されます。

レベル・パラメータを制御するエクスプレッション・ペダルにおいてPRESET機能を使用している場合、次にペダルを動かした時に、パラメータはペダル位置に相当する値へとジャンプしますので注意してください。場合によってはレベルが急増することもあります。

Tap Master - タップ・マスター

設定レンジ： Preset／Tap

プリセット変更時のテンポ設定の扱いを指定します。

Preset	プリセット設定値のテンポを適用します。
Tap	グローバル・タップ・テンポを適用します。

Tap Unit - タップ単位

設定レンジ： BPM／ms

テンポ表示の単位を指定します。

MIDI Clock - MIDIクロック

設定レンジ： ON／OFF

グローバル・タップ・テンポは、外部MIDIクロックのテンポに同期させることができます。ここで、MIDIクロックに反応するか否かを指定します。

FX Mute - エフェクト・ミュート

設定レンジ： Soft／Hard

プリセット変更時の、リバーブ及びディレイの余韻の扱いを指定します。

Hard	プリセット変更時に、エフェクトがミュートされます。
Soft	プリセット変更時に、エフェクトの余韻が鳴り続けます。

View Angle - ヴュー・アングル

液晶ディスプレイのバックライトを見やすい様に調節します。

MIDI マッピング

MIDI マッピングとは？

G•MAJOR では、MIDI プログラム・チェンジを受信した際に、それぞれ異なるプリセット番号を呼び出す様に設定できます。

受信した MIDI プログラム・チェンジ番号と、実際に呼び出されるプリセット番号の関連づけのことを、「マッピング」と言います。

この機能は、複数の MIDI 対応機器を併用される場合に効果的です。例えば、G•MAJOR と MIDI プリアンプを同時使用している場合、MIDI フットボードからプログラム・チェンジ 1 番を選択した場合に、プリアンプ側ではプログラム 1 番、G•MAJOR 側ではプリセット番号 10 番を呼び出したいとします。この様な場合、MIDI マッピング機能を使用すれば、プログラム・チェンジ 1 番を受信した場合に実際に呼び出されるプリセット番号を指定できます。

操作方法

基本的には、「受信プログラム・チェンジ番号 XX 番を」、「プリセット番号 XX 番にマッピングする」という手順で操作を行います。

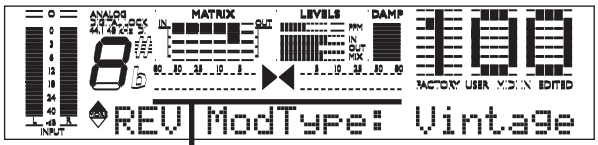
- MIDI/UTIL を押します。
- Prg Bank パラメータを選択し、Custom を選びます。
- ENTER を押します。
- 画面に、「Prg Chg 1」と表示されます。
- CONTROL/EDIT ホイールで、マッピングしたいプログラム・チェンジ番号を指定します。
- EFFECTS/PARAMETER ホイールで「Map To...」を選択します。
- CONTROL/EDIT ホイールで、プログラム・チェンジ番号に対して呼び出したいプリセット番号を指定します。
- 表示上、「Fact」からはじまるものはファクトリー・プリセット、「User」からはじまるものはユーザー・プリセットとなります。
- 「None」を選択した場合は、選択したプログラム・チェンジ番号に対して、G•MAJOR 側ではプリセットの変更を行いません。

MIDI マップのリセット

MIDI マッピングの設定を全てリセットするには、EFFECTS/PARAMETER ホイールで「Reset Map <Enter>」を選択し、ENTER ボタンを押します。

チューナー

チューナーは常に作動し、液晶ディスプレイに値が表示されます。



チューナー

基本操作

- MIDI/UTILボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでパラメータを選択します。
- CONTROL/EDITホイールで値を選択します。

Tuner Ref - チューナー基準ピッチ

設定レンジ：420～460Hz

チューナーの基準ピッチを指定します。標準的な基準ピッチは、440Hzです。

Tuner Mode - チューナー・モード

設定レンジ：Coarse／Fine

チューニングは2種類の精度で行えます。

Fine	最高精度。ギターをより正確にチューニングするときはこのモードを選択します。
Coarse	精度はやや劣りますが、より素早いチューニングが行え、ライブ用途などに適しています。

Tuner Rnge - チューナー・レンジ

設定レンジ：Guitar／Bass／7str Gtr

チューナーのレンジを設定します。チューナーの精度はこのチューナー・レンジによって変わるため、チューニングしたい楽器に合わせて設定を行ってください。

Guitar	ギター
Bass	ベース
7str Gtr	7弦ギター

Send Tuner - チューナー・センド

設定レンジ：Off／On

G•MINOR使用時にこのパラメータをONにすると、チューナー情報がG•MINORに送信されます。

Tuner Mute - チューナー・ミュート

ギターをチューニングする際、G•MAJORの出力をミュートすると都合の良い場合が多々あります。ミュート機能をON/OFFするには、MIDI CCを送信するMIDIペダルや、モメンタリー・スイッチないしオルタネーティング・スイッチ、あるいはエクスプレッション・ペダルをセットアップします。これらのセットアップはMODセクションで行います。

例

MIDIペダルからMIDIコントロールチェンジを受信することでG•MAJORのチューニングをミュートする場合、以下の設定を行います。

- MIDIペダルをG•MAJORに接続します。
- MODボタンを押したあと、CONTROL/PARAMETERホイールでTuner Muteパラメータを選択します。
- CONTROL/EDITホイールでLearnを選択してENTERボタンを押すと、>>>>>>Learning<<<<<<と表示されます。
- チューナー・ミュートを機能させたいMIDIペダルにおいて、コントロールチェンジのボタンを押します。

これで完了です。今後、このボタンを押すたびに、無音状態でチューニングが行えます。

入力ボリュームの調節には、エクスプレッション・ペダルをよく使用します。その場合、ボリュームをいっぱいまで下げてもチューナーは作動しています。

G•MAJORチューナーとG•MINORペダル

オプションのTC ELECTRONIC G•MINORペダルを使用すると、ペダルにもチューナー情報を表示させる事が可能です。

G•MINORペダルから出力のミュートを行うこともできます。

*MIDI/UTILメニューのSend Tunerパラメータが*ON*に設定されていないと、チューナー情報はG•MINORに送信されません。*

LEVELS ALL & RELAY 1+2

基本操作

- LEVELS ALL ボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETER ホイールでパラメータを選択します。
- CONTROL/EDIT ホイールで値を選択します。

PrsetOutLv - プリセット出力レベル

設定レンジ：OFF（-100dB）～0dB

選択されているプリセットの出力レベルを設定します。プリセットごとに全体のレベルを調節することにより、異なるプリセット間の音量的な統一感を保つことができます。

全てのファクトリー・プリセットではこの値が-6dB に設定されています。これは、後から作成するプリセットでファクトリー・プリセット以上のブーストを加えることを可能とします。

モディファイアー機能を使用して、MIDI あるいは EXTERNAL CONTROL ジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。ソロ用のレベルの設定の仕方は、後述の「ハウツー集」セクションにございます。

GloblInLv - グローバル入力レベル

設定レンジ：OFF（-100dB）～0dB

G•MAJOR の全体的な入力レベルを設定します。

パラメータの名前からもわかるように、この設定は本体全体に適用され、プリセットには保存されません。グローバル入力レベルを全体のボリューム・コントロールとして使用すると、ボリュームを落としてもディレイやリバーブなど余韻の残るエフェクトの減衰音は鳴り続けるため、自然な効果が得られます。

モディファイアー機能を使用して、MIDI あるいは EXTERNAL CONTROL ジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。

GloblOutLv - グローバル出力レベル

設定レンジ：OFF（-100dB）～0dB

G•MAJOR の全体的な出力レベルを設定します。

パラメータの名前からわかるように、この設定は本体全体に適用され、プリセットには保存されません。グローバル出力レベルを全体のボリューム・コントロールとして使用すると、ディレイやリバーブなど余韻の残るエフェクトの音量を含めた全体の音量コントロールとして機能します。

モディファイアー機能を使用して、MIDI あるいは EXTERNAL CONTROL ジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。

Rly1 (tip)、Rly2 (rng) - リレー 1（ティップ）、2（リング）

設定レンジ：Open ／ Closed

G•MAJOR にはスイッチング・リレーが内蔵されており、プリセット変更によってアナログ・プリアンプなどの装置をコントロールすることができます。リレーの設定値はプリセットに保存されているため、プリアンプやパワー・アンプのチャンネルがプリセットごとに切り替えられます。また、プリセットを変更しなくても MIDI フットコントローラーに MIDI CC 値を送信することでチャンネル切り替えが行えます。

- Rly 1(tip)を Closed に設定すると、スイッチング用 1/4 インチ・ジャックのチップ側がスリーブ GND にショートされます。Open はリレーが開いた状態です。
- Rly 2(rng)を Closed に設定すると、スイッチング用 1/4 インチ・ジャックのリング側がスリーブ GND にショートされます。Open はリレーが開いた状態です。

モディファイアー機能を使用して、MIDI あるいは EXTERNAL CONTROL ジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。

設定の詳細につきましては、後述の「その他の機能－チャンネル・スイッチング」（23 ページ）をご参照ください。

ROUTING – ルーティング

G•MAJORでは、エフェクトについて3種類のルーティング（内部接続形態）が可能です。ルーティングの設定値はプリセットに保存されます。しかし、Routing Lock機能を使えば、好みのルーティングに固定することも可能です。ルーティングの概念は、たとえばコンパクト・エフェクトを複数台使用する際の、各エフェクト機の接続方法とお考えいただければ分かりやすいかもしれません。

基本操作

- ROUTINGボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでRoutingLckまたはRouting typeを選択します。
- Routing typeを選択した場合、CONTROL/EDITホイールでSerial（シリアル）、Semi Parallel（セミ・パラレル）、Parallel（パラレル）を選択し、ENTERボタンで確定します。

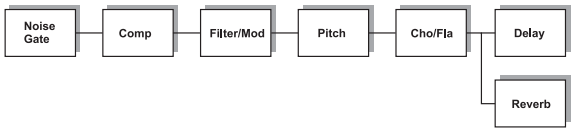
Serial - シリアル（直列）

Serialの接続形態では、通常のコンパクト・エフェクトにおける配線と同様、7つのエフェクト・ブロックが順番に直列で接続されます。エフェクト・ブロックは前に置かれたエフェクト・ブロックの影響を受けることになります。

長いディレイを使用する時は、ディレイの反復成分に加わるリバーブが邪魔になることがあります。その場合は、SemiPar（セミ・パラレル）またはParallel（パラレル）の接続形態を使用してください。

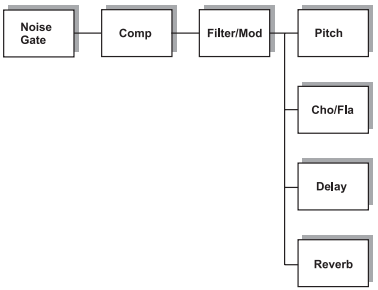
SemiPar - セミ・パラレル

SemiPar（Semi Parallel）では、最初の5つのエフェクト・ブロックが直列に接続されますが、リバーブとディレイが並列に接続されます。そのため、ディレイとリバーブのエフェクトが影響しあうことがありません。これは、たとえば、ディレイの反復がリバーブしたり、その逆が発生しないことを意味します。リバーブとディレイが並列に接続されることで、エフェクトの音像が明瞭となる効果もあります。



Parallel - パラレル（並列）

Parallelの接続形態では、ノイズゲート、コンプレッサー、トレモロといったエフェクトが直列に接続され、その先のピッチ、コーラス、ディレイ、リバーブが並列接続となります。



RoutingLck - ルーティング・ロック

MIDIのプログラムを変更するたびに、G•MAJORはルーティング設定を確認します。切り替え後のプリセットが切り替え前のプリセットと異なる接続形態を使用している場合は、ルーティングが変更されます。Routing-Lck機能はこれを停止し、接続形態を固定します。そのためプリセット変更によって変更されるのは、エフェクト関連のパラメータのみとなります。

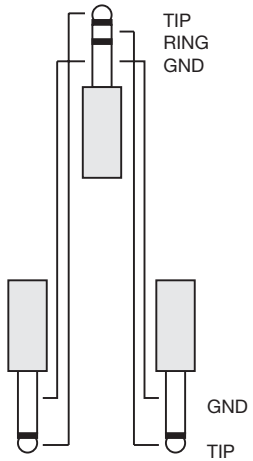
プリセット変更をスムーズにするため、そしてプログラミングを簡単にする意味合いからも、ルーティングは極力同一のものを使用し、特別な効果や機能が必要なときのみ変更することをお勧めします。

チャンネル・スイッチング

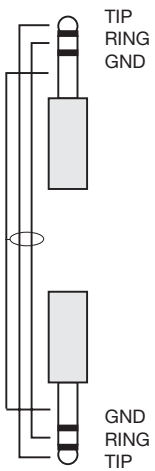
G•MAJORのリア・パネルにあるSWITCH端子を使えば、プリアンプのチャンネルの切り替えなどがプログラムできます。チャンネル・スイッチングの設定はプリセットに保存することができます。ケーブルは、プリアンプやコンボ・アンプに備わるチャンネル・スイッチング用の端子に応じて、ステレオの1/4インチ・ジャックを2つのモノ・ジャックに分離するY字分岐ケーブル（TIP to TIPおよびTIP to RING）、またはステレオーステレオ・ケーブルのいずれかを使用します。

ケーブルは次のように配線します。

Y字分岐ケーブル



ステレオーステレオ・ケーブル



基本操作

- LEVELS ALLボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでパラメータを選択します。
- CONTROL/EDITホイールで値を選択します。

Rly1 (tip) - リレー1（ティップ）

設定レンジ： Open／Closed

Rly 1(tip)をClosedに設定すると、スイッチング用1/4インチ・ジャックのチップがスリーブ（GND）にショートされます。Openはリレーが開いた状態です。

モディファイアー機能を使用して、MIDIあるいはEXTERNAL CONTROLジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。

Rly2 (rng) - リレー2（リング）

設定レンジ： Open／Closed

Rly 2(rng)をClosedに設定すると、スイッチング用1/4インチ・ジャックのリング側がスリーブGNDにショートされます。Openはリレーが開いた状態です。

モディファイアー機能を使用して、MIDIあるいはEXTERNAL CONTROLジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。

例

ここでは、G•MAJORを3チャンネル・コンボ又はプリアンプのいずれかと組み合わせて使う場合を想定します。

- はじめに、チャンネル切り替えに関するアンプ側の端子が2つのモノ端子か1つのステレオ端子かを確認し、それに従ってケーブルを選択します。
- G•MAJORリアパネルのSWITCH OUT端子にステレオ・ジャックを差し込みます。
- コンボ・アンプまたはプリアンプのチャンネル切り替え端子に、端子に合わせて2つのモノ・ジャックあるいは1つのステレオ・ジャックを差し込みます。
- チャンネル・スイッチングを割り当てるプリセットをG•MAJOR側で呼び出します。
- RELAY 1+2ボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでRly 1(tip)またはRly 2(rng)を選択し、CONTROL/EDITホイールで2つのリレーのOpen/Closedを切り替えます。

この操作によってプリアンプのチャンネルが切り替わります。クリーン・クランチおよびディストーションのチャンネルはアンプによって異なるため、ここで具体的にどのチャンネルだということは断言できません。それぞれのアンプに有効な基本設定をいくつか試してみてください。

タップ・テンポ、G•MAJORの外部コントロール MODメニュー

タップ・テンポ

Tap Tempo

タップ・テンポ機能を使えば、演奏している曲のテンポをタップ入力することができます。それにより、ビブラート、トレモロ、ディレイの各効果が演奏曲のテンポに合わせられます。

TAPボタンを使ってタップ入力するテンポはグローバルですが、タップ入力したグローバル・テンポが下位区分されるよう、テンポ・パラメータに複数のアルゴリズムを設定することができます。

G•MAJORの外部コントロール

G•MAJORをすでに使いはじめていて、プリセットをいくつかプログラムした経験のある人は、G•MAJORをMIDIボード、エクスプレッション・ペダル、あるいはオプションのG•MINOR MIDIフットスイッチを使ってコントロールしたいと思うかもしれません。

ラック・エフェクトの世界に足を踏み入れたばかりの方にとって、はじめはこのセクションがむずかしく思えるかもしれません。しかし設定の概要が分かると、G•MAJORを完全にコントロールすることがいかに簡単であるかが分かるでしょう。そして、その可能性の大きさを実感することでしょう。G•MAJORでは、後述の学習機能により、各種パラメータに関する外部コントロールの設定がきわめて簡単に行えます。

MODメニュー

このセクションでは、MODメニューのパラメータを外部コントロール装置に割り当てる方法について説明します。モディファイアーは、外部コントロール装置（たとえばエクスプレッション・ペダル）と特定のアルゴリズム・パラメータとをつなぐインタフェースであると考えることができます。モディファイアーの具体的な設定の手順については「モディファイアーの割り当て」（26ページ）もあわせてご参照ください。

- MODボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでパラメータを選択します。
- パラメータ毎に、コントロールの方法が設定できます。
  CONTROL/EDITホイールで以下のいずれかを選択します。
  OFF、Learn（学習）、Pedal（ペダル）、CC 0～127

OFF

モディファイアーの外部コントロールは行われません。

Learn

- ENTERボタンを押すとディスプレイが点滅し、学習モードであることを示します。
- ここで、モディファイアーをコントロールする外部コントローラーをG•MAJORに学習させます。CCを送出する（MIDIペダルのCCボタンを押す）か、またはエクスプレッション・ペダルないしスイッチを動かします。
- Learningの点滅が止まれば作業は終了です。

G•MAJORの外部コントロール MODメニュー

Pedal
モディファイアーのコントロールは、リア・パネルのEXTERNAL CONTROL IN端子につないだペダルで行います。

CC 0-127
モディファイアーが応答するべきCC番号を手動で指定できます。

ブロックのON/OFFやTuner Muteの切り替えは、MIDI CC（コントロール・チェンジ値）をMIDIペダルから送出して行うのが一般的な方法です。またレベル、スピード、ピッチのパラメータ制御は、エクスプレッション・ペダルを使って行うのが一般的な方法です。

MODメニューのパラメータ

Mod 1～4
モディファイアーは、エクスプレッション・ペダル等の外部コントロール装置と特定のアルゴリズム・パラメータとをつなぐインタフェースであると考えることができます。モディファイアーの操作については「モディファイアー」セクションで説明します。

Tap Tempo - タップ・テンポ
外部コントローラーによるタップ・テンポの調節です。ディレイ・タイムやトレモロ・スピードなどにテンポ・パラメータを割り当てることができます。

Bypass All
外部コントローラーによるBYPASS ALLのON/OFF切り替えです。

Tuner Mute - チューナー・ミュート
ギターのチューニング時にG•MAJORの出力のミュートを可能にします。

Globl Inlv - グローバル入力レベル
外部コントローラーによる全体的な入力レベルの調節です。

PrsetOutlv - プリセット出力レベル
外部コントローラーによるプリセット出力レベルの調節です。

PrsetBoost - プリセット・ブースト
外部コントローラーから、LEVELS ALLメニューで設定されているプリセット出力レベルを一時的に0dBまでブーストする機能です。これは、あらゆるプリセットにおいて使用可能で、フィルの演奏時など同一のプリセット内で一時的にレベルをブーストしたい時に便利です。MIDI CCの値が64以上になるとレベルがブーストされ、MIDI CCの値が64以下になるとプリセット出力レベルに戻ります。

新しいプリセットが呼び出されると、Preset Boostのコントローラーはリセットされます（すなわち、64以下の数値が送られます）ので、MIDI IN/OUTが両方MIDIフットコントローラーに接続されている場合は、MIDIフットコントローラー側での表示も更新されます。

この機能を活用する場合の注意点として、プリセットの出力レベルが0dBに設定されていると、ブーストされるレベルの幅が存在しないために、効果があらわれない点が挙げられます。

GloblOutLv - グローバル入力レベル
外部コントローラーによるGlobal Out Levelの調節です。

Rly1 (tip) - リレー1
外部コントローラーによるRly 1(tip)の調節です。

Rly 2(rng) - リレー2
外部コントローラーによるRly 2(rng)の調節です。

COM On/Off - コンプレッサーON/OFF
外部コントローラーによるコンプレッサーのON/OFF切り替えです。

FLT On/Off - フィルターON/OFF
外部コントローラーによるフィルターのON/OFF切り替えです。

PIT On/Off - ピッチON/OFF
外部コントローラーによるピッチのON/OFF切り替えです。

CHO On/Off - コーラス／フランジャーON/OFF
外部コントローラーによるコーラス／フランジャーのON/OFF切り替えです。

DLY On/Off - ディレイON/OFF
外部コントローラーによるディレイのON/OFF切り替えです。

REV On/Off - リバーブON/OFF
外部コントローラーによるリバーブのON/OFF切り替えです。

NG On/Off - ノイズゲートON/OFF
外部コントローラーによるノイズゲートのON/OFF切り替えです。

モディファイアー

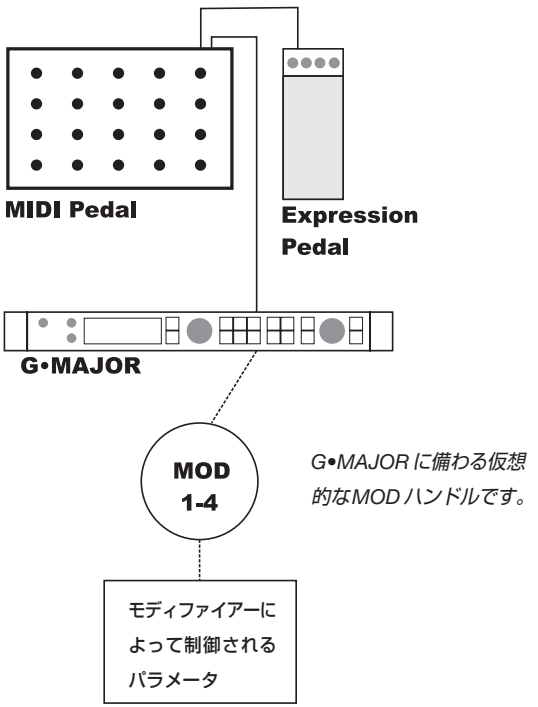
モディファイアー 1 ～ 4

G•MAJORにはモディファイアーが4つ備わっています。

モディファイアーは一種の仮想的なハンドルであり、MIDI CCのほか、外部コントロール端子に接続されたエクスプレッション・ペダルなどのコントローラーを用いることで、パラメータの値をリモート・コントロールすることができます。モディファイアーは、G•MAJORの内部で複数のエフェクト・パラメータを同時に関連づけることができます。

たとえば、エクスプレッション・ペダルをモディファイアーに接続することで、ディレイ出力やトレモロの速度、入力レベルなどがコントロール可能になります。

モディファイアーを用いた外部コントロール



モディファイアーの割り当て

特定パラメータを制御するための外部コントローラー割り当てには、2段階の操作が必要です。

ステップ 1 ：モディファイアーを外部コントローラーに割り当てる

- MODボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでパラメータを選択します。
- パラメータ毎に、コントロールの方法が設定できます。
  CONTROL/EDITホイールで以下のいずれかを選択します。
  OFF、Learn（学習）、Pedal（ペダル）、CC 0 ～ 127

OFF

モディファイアーの外部コントロールは行われません。

Learn

- ENTERボタンを押すとディスプレイが点滅し、学習モードであることを示します。
- ここで、モディファイアーをコントロールする外部コントローラーをG•MAJORに学習させます。CCを送出する（MIDIペダルのCCボタンを押す）か、またはエクスプレッション・ペダルないしスイッチを動かします。
- Learningの点滅が止まれば作業は終了です。

Pedal

モディファイアーのコントロールは、リア・パネルのEXTERNAL CONTROL IN端子につないだペダルで行います。

CC 0-127

モディファイアーが応答するべきCC番号を手動で指定できます。

ステップ 2 ：パラメータをモディファイアーに割り当てる

- MOD メニューにまだ入っていないときは MOD ボタンを押し、ディスプレイ部に MOD 1、2、3、または 4 を表示させます。
- ENTER ボタンを押します。なお、このメニューはモディファイアーを選択するためのものではないため、4 つのいずれを選んでもかまいません。

モディファイアーからコントロールできるパラメータが一覧表示されます。パラメータ表示をスクロールするには、CONTROL/ PARAMETER ホイールを使用します。ディスプレイ部の左側にはパラメータ名が、右側には割り当てられているモディファイアーが表示されます。

- CONTROL/PARAMETER ホイールでパラメータを選択します。
- CONTROL/EDIT ホイールを使ってパラメータを割り当てる先のモディファイアーを 4 つのうちから選択します。
- ENTER ボタンを押し、ステップ 3 に進みます。

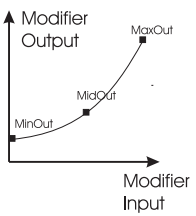
ステップ 3 ：モディファイアーのレスポンス・カーブを設定する

モディファイアーのレスポンス・カーブは、エクスプレッション・ペダル等の動きに対するモディファイアーの応答の様子を決定します。設定するパラメータは 3 つです。

MinOut ：エクスプレッション・ペダルないしモディファイアー入力が最小位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。

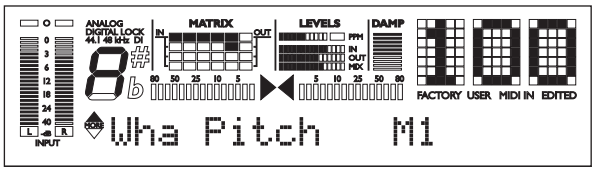
MidOut ：エクスプレッション・ペダルないしモディファイアー入力が中央位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。

MaxOut ：エクスプレッション・ペダルないしモディファイアー入力が最大位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。



エクスプレッション・ペダルをワーミー・ペダルとして割り当てる

この例では、先に説明した学習機能などを使って、エクスプレッション・ペダルをモディファイアー 1 に事前に割り当てておく必要があります。



アルゴリズム　パラメータ　割当先モディファイアー

例

- エクスプレッション・ペダルを、G•MAJOR リアパネルの EXTERNAL CONTROL 端子、又は MIDI ペダルのエクスプレッション・ペダル入力端子に接続します。接続にはステレオ－ステレオのケーブルを使用します。
- エクスプレッション・ペダルをまだキャリブレーションしていない場合は、「MIDI & ユーティリティー」セクション（17 ページ）の PedalCalib をご参照ください。
- ファクトリー・プリセットの 67 もしくは 68 番を呼び出します。
- MOD ボタンを押し、MOD メニューに入ります。
- ENTER ボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETER ホイールで PIT Pitch を選択します。
- CONTROL/EDIT ホイールで M1 を選択します。

NOTE *接続しているエクスプレッション・ペダルのタイプに応じてキャリブレーションを行う必要があります。操作は MIDI/UTIL メニューで行います。本マニュアルに記載されている MIDI/UTIL メニューの操作方法をお読みください。*

割り当て可能なパラメータの種類

モディファイアーに割り当て可能なパラメータは、MOD メニュー内に表示されています。パラメーター覧の内容は、各種エフェクト・ブロックにおいて動作しているアルゴリズムの種類によって異なります。

ハウツー集

基本設定

- 10～11ページの説明に従ってG•MAJORを接続し、電源を入れます。
- 最大のダイナミクスをもつ最大音をプリアンプまたはエフェクト・ペダルから探し、ピークがおよそ-3dBになるよう入力レベルを設定します。歪んだ音は本質的にコンプレッションされているのに対し、最大のダイナミクスをもつ音は多くの場合、クリーンな音です。
- G•MAJORの出力の接続先とレベルが一致するよう、出力を設定します。

プリセット内で特定のエフェクト・ブロックをバイパスする方法

該当するブロックのボタンを押すだけです。エフェクト・ブロックはバイパスされますが、プリセットには自動的に保存されません。

プリセットを保存するにはSTOREボタンを押し、続いてENTERボタンを押します。プリセット保存の詳細は、15ページをご参照ください。

ブロックのボタンを押すと、ブロックを前の設定内容のままいつでもONにすることができます。バイパスしたブロックは音には一切の影響を与えません。

特定のプリセットをブーストする方法

G•MAJORのファクトリー・プリセットはすべて-6dBで統一されています。プリセット・ブースト機能を使用すると、この設定を一時的に0dBに変更し、ソロ時などでレベルをブーストさせることができます。全体のレベルを統一させることと、いざという時のヘッドルームを確保する観点から、ユーザー・プリセットとLEVEL ALLSメニューのPreset Levelパラメータで最低6dBのヘッドルームを確保されることをお勧めいたします。

- ブーストを行いたいプリセットを選択します。
- LEVELS ALLメニューで、プリセットのレベルを-6dBに設定します。
- MODボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでPreset Boostを選択します。
- CONTROL/EDITホイールでLEARNを選択します。
- ENTERを押します。
- フットコントローラーからCCを送信するか、EXTERNAL CONTROL端子に接続されたペダルを動かします。ペダルを動かした場合はPEDALと表示され、CCを送信した場合はCC番号が表示されます。
- プリセットを保存します。

以上での操作で、そのプリセットを呼び出した度に、LEVELS ALLで設定された-6dBのレベルになり、プリセット・ブーストを使用している時に6dBのブーストを得られます。

ギター・チューニングの際にG•MAJORの出力をミュートする方法

フロント・パネルからミュートする

BYPASS ALLボタンを1秒ほど押しつづけます。ミュートを解除するにはBYPASS ALLボタンをもう一度押します。

外部ペダル等からのコントロール・チェンジ情報を使ってミュートする

- MODボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでTuner Muteを選択します。
- ENTERを押し、学習機能を開始します。ディスプレイが点滅します。
- ミュート制御に使いたいMIDI CCを送信するか、EXTERNAL CONTROL端子に接続されたスイッチを踏みます。
- これで、チューニング時に出力をミュートするために行う動作内容がG•MAJORに記憶されました。

プリセット変更時にディレイの余韻を切りたくない方法

これはグローバル・パラメータであり、MIDI/UTILメニューから設定を行えます。ページ18の、FX Muteパラメータをご参照ください。

トレモロやビブラートの周期をMIDIシーケンスに同期させる方法

- G•MAJORの同期に用いるMIDIクロックを送出するシーケンサーなどのMIDI出力を、G•MAJORのMIDI入力に接続します。
- MIDI/UTILボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでMIDI Clockを選択します。
- CONTROL/EDITホイールでMIDI ClockをONに設定します。

これでG•MAJORは、入力MIDIクロックのテンポをグローバル・テンポとして使うようになります。下位区分は、そのアルゴリズムにおけるTempoパラメータによって設定できます。

G•MAJORのSWITCH端子およびMIDI CCを送出するMIDIボードによってプリアンプのチャンネル切り替えを行う方法

G•MAJORのSWITCH OUT端子とプリアンプないしコンボ・アンプのチャンネル切り替え端子を接続します。

- MODボタンを押します。
- CONTROL/PARAMETERホイールでRly 1(tip)またはRly 2(rng)を選択します。
- ENTERボタンを押して学習機能をONにします。
- MIDIボードのMIDI CCスイッチを押します。

MIDI CCスイッチによってアンプのチャンネルが切り替わります。切り替えるチャンネルが他にもある場合は、上記の手順をもう片方のリレーについて繰り返します。

エフェクトについて

エフェクトについて

フロント・パネルには6つ（ノイズゲートを含めると7つ）のエフェクト・ボタンがあります。基本的な操作方法は次の通りです。

- シングルクリック：エフェクトのON/OFFを切り替えます。
- ダブルクリック：エフェクトの編集ページに入ります。

エフェクト編集ページの操作には、CONTROL/PARAMETERホイールとCONTROL/EDITホイールを使います。エフェクトのなかには、アルゴリズムを複数備えたものがあります。たとえばフィルター・ブロックには、フェーザー、トレモロ、パンナー、レゾナンス・フィルターなどがあります。アルゴリズムの選択は、エフェクト編集ページの最初のパラメータとして表示されます。

すべてのエフェクト・ブロックは常に存在し、機能ボタンのシングルないしダブル・クリックによっていつでもON/OFFまたはアクセスできます。エフェクト・ブロックをバイパスするということは、当該エフェクトを無効にすることであり、ルーティング（内部接続形態）上は存在しつづけるものの、サウンドには一切影響を与えません。

バイパスされるブロックの設定内容はプリセットに保存されているため、ブロックを以前の設定内容のままで再度ONにすることが簡単にできます。コンパクト・エフェクトのON/OFFを切り替えるようなものだと考えてください。

搭載エフェクト・リスト

搭載エフェクト・リスト

G•MAJORの搭載エフェクトは、次の通りです。

NOISE GATEブロック

ノイズゲート	NG	Noise Gate
イコライザー	EQ	EQ

COMPブロック

コンプレッサー	COM	Compressor

FILTER/MODブロック

オート・レゾナンス・フィルター	FIL	Auto Res
レゾナンス・フィルター	FIL	Resonan
ヴィンテージ・フェーザー	PHA	VinPhas
スムーズ・フェーザー	PHA	SmthPhas
トレモロ	TRM	Tremolo
パンナー	PAN	Panner

PITCHブロック

ディチューン	PIT	Detune
ワーミー	PIT	Whammy
オクターバー	PIT	Octaver
ピッチシフター	PIT	Shifter

CHO/FLAブロック

クラシック・コーラス	CHO	Clas.Cho
アドバンスド・コーラス	CHO	Adv.Cho
クラシック・フランジャー	FLA	Clas.Fla
アドバンスド・フランジャー	FLA	Adv.Fla
ビブラート	VIB	Vibrator

DELAYブロック

ピンポン・ディレイ	DLY	PingPong
ダイナミック・ディレイ	DLY	Dynamic
デュアル・ディレイ	DLY	Dual

REVERBブロック

スプリング・リバーブ	REV	Spring
ホール・リバーブ	REV	Hall
ルーム・リバーブ	REV	Room
プレート・リバーブ	REV	Plate

NOISE GATE - ノイズゲート (NOISE GATEブロック)

一般にノイズゲートは、ギターを演奏しない時に信号を減衰する目的で使用されます。それによって、自身のシステム中に発生するヒス（高域の雑音）やハム（低いうなり音）などの雑音を落とすことができます。しかしながら、これは、雑音問題の根本的な解決につながる訳ではありません。まずは、雑音の発生を極力防止することが必要です。雑音の発生要因は様々です。一般的なノイズ源としては、品質の低いケーブル、シールドが不十分なシングルコイル・ピックアップ、信号ケーブルの近くにあるACアダプターなどがあり、これらは試行錯誤によって回避できるものも多くあります。

どの様なギターのセットアップにも、常に多少の雑音が存在します。一般的には、演奏している音のレベルに関わらず、ノイズのレベルは一定なため、ノイズの相対的なレベルは楽器を演奏していない時が一番高くなります。ノイズゲートは、演奏していないときの雑音を減少させることに役立ちます。ただし、スレッショルド・レベル（しきい値）およびリリース・レートを設定する時には注意が必要です。スレッショルドが高すぎると、たとえばギターを静かに弾いたときにゲートが開かなくなります。また、リリース・タイムが遅すぎると、アタックがカットされてしまい、不自然な音になってしまいます。

設定値はG•MAJORに入力する信号によって異なります。通常、クリーンな音とオーバードライブされた音とでは、異なる設定が必要です。

NG Mode - ノイズゲート・モード

設定レンジ： Soft／Hard

信号がスレッショルドを下回ったときにノイズゲートが信号を減衰させる速さを決めます。

NG Thres - ノイズゲート・スレッショルド

設定レンジ：-60dB～0dB

ノイズゲートが信号の減衰を開始するレベルを指定します。このパラメータを設定するには、演奏しない状態で、ギターのボリュームツマミを上げていきます。続いて、このしきい値を-60dBから所望の減衰開始値まで上げます。このとき、NG Dampパラメータは0dB以外であることが必要です。

NG Damp - ノイズゲート最大ダンピング

設定レンジ： 0dB～90dB

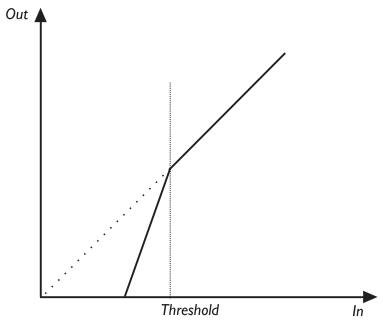
このパラメータは、信号がスレッショルドを下回ったときに信号をアッテネートする強さを設定します。最大の減衰量が常に適切であると主張することも可能ですが、ゲートの作動／非作動時のスムーズな切り替えも重要です。強い音を発生させなければならないときほど、ノイズゲートの境界は明確になります。普遍的な設定値がいつも存在するとは限らないため、それぞれの音について試行錯誤することが必要です。

Release - リリース

設定レンジ： 3dB/sec～200dB/sec

リリース・レートは、入力信号がスレッショルドを超えた時に信号がリリースされる速さを設定します。

図



EQ - イコライザー（NOISE GATEブロック）

3バンドのパラメトリック・イコライザーです。すばやく設定が行える様、初期設定は一般的なギター・サウンドに適したと思われる周波数帯となっておりますが、以下のFreqパラメータを使用してイコライザーが作動する周波数帯を変更できます。

G•MAJORのEQは、 NOISE GATEセクション内にございます。

以下のパラメータは、EQ1／EQ2／EQ3の全てのバンドに共通です。

EQ Active - EQアクティブ

設定レンジ： Off／On

EQのON/OFFを設定します。EQのパラメータはNOISE GATEセクション内にございますが、NOISE GATEボタンはノイズゲートのみのON/OFFを表示します。EQのON/OFF状態はNOISE GATEボタンのLEDでは確認できませんので、このパラメータの状態で確認します。

Freq - 周波数

設定レンジ： 40.97Hz～20.0kHz／Off

選択されているバンドの周波数を指定します。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12dB～+12dB

選択されているバンドのブースト／カット量を指定します。

Width - 幅

設定レンジ： 0.2 OCT～4.0 OCT

FREQ指定した周波数を中心にして、どれだけの幅でEQを施すかを指定します。「OCT」は、オクターブを示します。

COMPRESSOR - コンプレッサー（COMPブロック）

コンプレッサーは、信号のダイナミック・レンジを減らすために使用されます。それによってなぜギターの音全体の印象が良くなるのでしょう? ギターに対してコンプレッサーを使用しない方がいい状況もあれば、コンプレッサーがサウンドをよりソリッドにする鍵となる状況もあります。ここにいくつか例を紹介します。

たとえば、常に一定のレベルでクリーンなリズム・ギターのパターンを延々と繰り返したいとします。これは、実際には非常に困難なことです。たまにはストロークが強すぎるときもあるでしょう。強く弾きすぎた時の音量が大きすぎると、サウンド・エンジニアはギターのレベルを下げ、ピークが耳障りになるのを防ぎます。このように全体的なレベルを下げた場合、ギターを弱く弾くとギター音が完全に聞こえなくなってしまいます。コンプレッサーは、音量的なばらつきを圧縮することにより、こうした問題を解決することができる場合があるのです。

このほかリード音にコンプレッションをかけ、レベルを均等化するという使い方もあります。スレッショルドを低く設定してコンプレッサーを常に作動させる一方でレシオを高くすれば、コンプレッション効果がよくわかります。たとえば、ピンク・フロイド「The Wall」の「Another Brick In the Wall」でDavid Gilmourが演奏する有名なソロを聴いてみるといいでしょう。

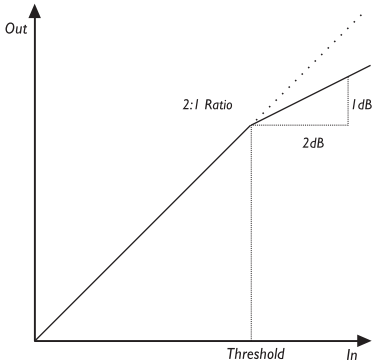
しかし、たとえばRobben Fordsの様なダイナミック・レンジの広い演奏スタイルでは、コンプレッションを使うと演奏の味を損なってしまうかもしれません。

他の多くのエフェクトについても言えることですが、コンプレッサーは特に、適切な設定では非常に明確なメリットが得られます。しかし、適切でない設定ではかえってサウンドを損なってしまう可能性も常にあるのです。

実際の活用法は、演奏法や音楽のスタイルなどによって、様々です。サウンドをよりパワフルに聞かせたり、音量差を抑えながらもピッキングの強さによる音色の差を表現するなど、サウンド・メイキングに積極的に応用できます。その鍵は、試行錯誤にあります。

コンプレッサー・ブロックを含むG•MAJORのプリセットを、リード音とリズム音の両方に使ってみてください。どの様な場面でどの様な設定が適切か、経験と共に理解が深まるものと思います。

図



Thres - スレッショルド

設定レンジ：-40dB～0dB

入力がこの値を超えると、コンプレッサーが作動します。スレッショルドを超えた信号は、レシオ／アタック／リリースで設定された特性に合わせてプロセスされます。

Ratio - レシオ

設定レンジ：off／1.12:1～inf:1

レシオの設定値は、信号の圧縮の強さを示します（上図参照）。

例：2:1にレシオを設定した場合、入力がスレッショルド値から2dB上がるごとに出力が1dB上がります。infの設定では、リミッターとして作動します。

Attack - アタック

設定レンジ：1.0 ms～70 ms

コンプレッサーが反応するのにかかる時間です。アタック・タイムが短いほど、信号がしきい値を超えてから指定レシオに圧縮されるまでの時間が短くなります。

Release - リリース

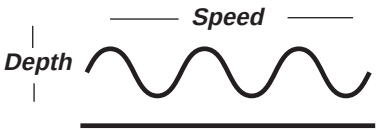
設定レンジ：50 ms～2.0s

入力信号がスレッショルド値を下回った際に、コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」し、入出力レベルの比率が1:1に戻るまでの時間です。

コーラス／フランジャーについて

コーラスおよびフランジャーは、基本的にLFO（低周波発振器）によって変調されたショート・ディレイです。コーラスとフランジャーの違いは、異なるディレイ・タイムを持ち、フランジャーにはフィードバック・パラメータがあることです。ショート・ディレイのモジュレーションは、きわめて小さなピッチ変動をもたらします。このピッチ変動が元音とミックスされるとコーラスになり、また変調信号単独で使われるとピッチ・モジュレーターになります。これはビブラートとも呼ばれます。

図



上の概略図は、コーラス・エフェクトが元音とピッチ変調信号から成り立っていることを示しています。

CLASSIC CHORUS（Clas.Cho） - クラシック・コーラス（CHO/FLAブロック）

クラシック・コーラスでは、デフォルトとしてゴールデン・レシオと呼ぶ、スピードとデプスの関係を使用します。この特徴はTC 2290から継承されており、設定に関わらずスムーズなコーラス効果が得られます。

CHO Speed - スピード

設定レンジ：0.050Hz～19.95Hz

機種によっては「レート」とも呼ばれるこのパラメータは、コーラスの速度を調節します。

コーラスの速度は、Speedパラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempoパラメータは、グローバル・テンポに応じて速度を設定します。Speedパラメータは、テンポ・パラメータがIgnored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ：0～100%

コーラスの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

TempoをIgnored以外の値に設定すると、Speedパラメータによって定義したテンポは無視されます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもコーラス効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

ADVANCED CHORUS （Adv.Cho）- アドバンスド・コーラス（CHO/FLA ブロック）

アドバンスド・コーラスには、クラシック・コーラスにはないパラメータがいくつか含まれています。ゴールデン・レシオのON/OFF、コーラス・ディレイの調節、およびフェイズ・リバース機能の適用といったパラメータがあり、より空間の広いコーラス効果が得られます。

CHO Speed - スピード

設定レンジ： 0.050Hz～19.95Hz

機種によっては「レート」とも呼ばれるこのパラメータは、コーラスの速度を調節します。

コーラスの速度は、Speed パラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempo パラメータは、グローバル・テンポに応じて速度を設定します。Speed パラメータは、テンポ・パラメータがIgnored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ： 0～100%

コーラスの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもコーラス効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Delay - コーラス・ディレイ

設定レンジ： 0.1ms～50.0ms

先に述べたように、コーラス／フランジャーは基本的にはLFO変調されたディレイです。このパラメータで、そのディレイの長さを調節できます。典型的なコーラスが使用するディレイの長さは約10 ms、フランジャーは5 ms前後です。

Gold - ゴールデン・レシオ

設定レンジ： OFF／ON

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のコーラスの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機TC 2290から継承されています。

PhaRev - 位相反転

設定レンジ： OFF／ON

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ： -100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

CLASSIC FLANGER（Clas.Fla）- クラシック・フランジャー（CHO/FLA ブロック）

FLA Speed - スピード

設定レンジ：0.050Hz～19.95Hz

機種によっては「レート」とも呼ばれるこのパラメータは、フランジャーの速度を調節します。

フランジャーの速度は、Speed パラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempo パラメータは、グローバル・テンポに応じて速度を設定します。Speed パラメータは、テンポ・パラメータがIgnored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ：0～100%

フランジャーの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもフランジャー効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

FB - フィードバック

設定レンジ：-100%～100%

エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を調節します。フィードバック値が大きすぎる（90～95%以上）と、内部フィードバックにより発信ノイズが発生しますので、大きな音量で試すときには注意してください。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

FB Cut - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：19.95Hz～17.8kHz／OFF

フィードバック信号の高周波を減衰させるパラメータです。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

ADVANCED FLANGER（Adv.Fla）- アドバンスド・フランジャー（CHO/FLA ブロック）

FLA Speed - スピード

設定レンジ： 0.050Hz～19.95Hz

機種によっては「レート」とも呼ばれるこのパラメータは、フランジャーの速度を調節します。

フランジャーの速度は、Speed パラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempo パラメータは、グローバル・テンポに応じて速度を設定します。Speed パラメータは、テンポ・パラメータがIgnored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ： 0～100%

フランジャーの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもフランジャー効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

FB - フィードバック

設定レンジ： -100%～100%

エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を調節します。フィードバック値が大きすぎる（90～95%以上）と、内部フィードバックにより発信ノイズが発生しますので、大きな音量で試すときには注意してください。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

FB Cut - フィードバック・ハイカット

設定レンジ： 19.95Hz～17.8kHz／OFF

フィードバック信号の高周波を減衰させるパラメータです。

Delay - フランジャー・ディレイ

設定レンジ： 0.1ms～50.0ms

先に述べたように、コーラス／フランジャーは基本的にはLFO変調されたディレイです。このパラメータで、そのディレイの長さを調節できます。典型的なコーラスが使用するディレイの長さは約10 ms、フランジャーは5 ms前後です。

Gold - ゴールデン・レシオ

設定レンジ： OFF／ON

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のフランジャーの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機TC 2290から継承されています。

PhaRev - 位相反転

設定レンジ： OFF／ON

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ： -100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

VIBRATO（Vibrator） - ビブラート（CHO/FLA ブロック）

ビブラートは入力ピッチを変調します。得られる結果は、ボーカリストのビブラート・テクニックに似ています。コーラスとは異なり、ピッチ変調音に対して元の信号は加えません。

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050Hz～19.95Hz

機種によっては「レート」とも呼ばれるこのパラメータは、ビブラートの速度を調節します。

ビブラートの速度は、Speed パラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempo パラメータは、グローバル・テンポに応じて速度を設定します。Speed パラメータは、テンポ・パラメータがIgnored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ： 0～100%

機種によっては「インテンシティ」とも呼ばれるこのパラメータは、ビブラートの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

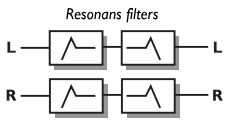
このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

RESONANCE FILTER レゾナンス・フィルター

AUTO RESONANCE FILTER（Auto Res） - オート・レゾナンス・フィルター

（FILTER/MOD ブロック）

オート・レゾナンス・フィルターは、タッチワウの様な効果を実現します。レゾナンス周波数が入力のレベルに連動します。



Style - スタイル

設定レンジ： 2nd／4th

フィルターの鋭さを設定します。2次フィルターは12dB／オクターブ、4次フィルターは24dB／オクターブです。4次フィルターは、2次フィルターより極端なレゾナンス効果を生成します。

Sensi - センシティビティ

設定レンジ： 0～10

入力感度を設定します。

Resp - レスポンス

設定レンジ： Slow／Medium／Fast

入力レベルに応じた周波数のスイープ速度を設定します。

FrqMax - 最大周波数

設定レンジ： 1.00kHz～10.0kHz

スイープが行われる周波数帯域を設定します。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

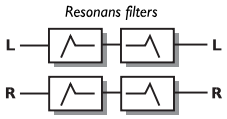
OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

RESONANCE FILTER（Resonan） - レゾナンス・フィルター（FILTER/MOD ブロック）

レゾナンス・フィルターは基本的にローカット及びハイカット・フィルターです。Resonance（Q）パラメータを上げると、カットオフ周波数におけるピークが狭く、かつ鋭くなり、特徴的なサウンドを形成します。



Style - スタイル

設定レンジ： 2nd／4th

フィルターの鋭さを設定します。2次フィルターは12dB／オクターブ、4次フィルターは24dB／オクターブです。4次フィルターは、2次フィルターより極端なレゾナンス効果を生成します。

HiCut - ハイカット周波数

レンジ： 19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。

Res - レゾナンス

レンジ： 0～100%

ハイカット・フィルターのレゾナンス量を設定します。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

VINTAGE PHASER（VinPhas）& SMOOTH PHASER（SmthPhas）- ビンテージ＆スムーズ・フェーザー

（FILTER/MOD ブロック）

G•MAJOR は 2 種類のフェーザーを搭載しています。ビンテージ・フェーザーは、古いコンパクト・エフェクトに似たフェージング効果をもたらします。スムーズ・フェーザーはより繊細で、薄い効果を軽くかけるときに優れた性能を発揮します。

ビンテージ・フェーザーは 4 つのオールパス・フィルターを使用しています。それがコム・フィルター的な特性を持ち、エフェクト音がドライ音とミックスされることにより、独特な位相感が得られます。

スムーズ・フェーザーでは 12 のオールパス・フィルターを使用しています。フィルター数を多く使用することにより、ビンテージ・フェーザーよりも滑らかなサウンドが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050Hz ～ 19.95Hz

フェーザーの速度を調節します。

このエフェクトにおける速度は、Speed パラメータか、テンポ設定値のいずれかで定義されます。Tempo パラメータは、グローバル・テンポとしてタップ入力されたデータに応じて速度を設定します。Speed パラメータは、テンポ・パラメータが Ignored（無視）に設定されているときにのみ有効となります。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100%

フェーザーの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignored（無視）／ 1 ～ 1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo を Ignored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

FB - フィードバック

設定レンジ： -100% ～ 100%

エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を調節しますパラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

Range - レンジ

設定レンジ： LOW ／ HIGH

フェーザー効果が主にかかる周波数帯域を指定します。

PhaRev - 位相反転

設定レンジ： ON ／ OFF

LFO 波形の位相を変え、一つの波形の開始ポイントに少量のディレイを発生させます。左右の出力の波形の開始点に微量のズレが生じ、ワイドなフェーザー効果が得られます。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ： -100dB ～ 0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

TREMOLO - トレモロ（FILTER/MODブロック）

トレモロは基本的にLFOによってレベル変動させる効果です。G•MAJORではソフトで滑らかなものからハードでアグレッシブなものまで幅広いトレモロが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050Hz～19.95Hz

トレモロの速度を調節します。

Depth - デプス

設定レンジ：0～100%

機種によっては「インテンシティ」とも呼ばれるこのパラメータは、トレモロの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

Type - タイプ

設定レンジ：Soft／Hard

トレモロの曲線には二種類あります。実際に違いを耳で聞いてみてください。

Pwidth - パルスワイズ

設定レンジ：0～100%

LFO波形のパルス幅を制御します。たとえば設定値が75%のとき、波形の上半分は75%の時間の間、ONとなります。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：19.95Hz～17.8kHz／OFF

この値より高い周波数のレベルを減少させます。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

PANNER - パンナー（FILTER/MODブロック）

信号を左右チャンネル間に揺らします。

Speed - スピード

設定 レンジ：0.050Hz～19.95Hz

パンニングの速度を調節します。

Width - パンニング幅

設定 レンジ：0～100%

値が100%の場合、信号は左から右に完全に移動します。設定を落とすとより緩やかに音像が移動し、全体のサウンドになじむ設定となります。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

ディレイについて

G•MAJORは3種類のディレイを搭載し、基本的なものから、これまでは高価なスタジオ装置がないと実現できなかった効果まで網羅します。

3つのモードの使い方がわかれば、用途に合わせたディレイの設定がとても簡単に行えます。

ハイカットとローカット

ハイカット周波数とローカット周波数のパラメータは、それぞれのディレイ・アルゴリズムを説明する箇所でこの後何度か登場します。長文の説明を繰り返す代わりに、以下に基本的な概要を説明します。必要に応じて参照してください。

FBHCut - フィードバック・ハイカット概要

最新のデジタル技術は、極めて正確な音声の再現を可能とし、ディレイ効果における反復成分などもより高音質で行える様になりました。しかし、原音に忠実なディレイは、必ずしも望ましいとは限りません。こもった音の方がまとまりのあるサウンドとなる場合があります。

この様な場合、ハイカット・フィルターを使用して、アナログないしテープ式のディレイ装置をエミュレートしてみてください。

FBLCut - フィードバック・ローカット概要

低周波を含む信号にディレイを用いると、ディレイ成分が重なり過ぎて、低域が飽和して聞こえることがあります。そうした状態になったら、ディレイ全体のレベルを下げる代わりに、FBLCutパラメータを使って低周波のみのレベルを落とすことをお試しください。

PING-PONG - ピンポン・ディレイ（DELAYブロック）

ピンポン・ディレイは、ディレイの反復成分を左右にパンニングします。活用法は様々ですが、一般的には、コードをフェードインするときのサウンドをワイドに聞かせたり、リズミックなパターンやソロ時にディレイと重なりあう特種なパートを演出したい時に使用できます。

Dly - ディレイ・タイム

レンジ：0～1800ms

ディレイ成分の間隔を指定します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）

グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

Width - パンニング幅

設定レンジ：0～100%

値が100%の場合、信号は最も極端に左右に揺れます。設定を落とすとより緩やかに音像が移動し、全体のサウンドになじむ設定となります。

FB - フィードバック

設定レンジ：0～100%

リピートの回数を指定します。

FBHCut - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：2.00kHz～17.8kHz／OFF

指定周波数を超える周波数のレベルを落とします。

FBLCut - フィードバック・ローカット

レンジ：OFF、22.39Hz～2.00kHz

指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

DYNAMIC DELAY - ダイナミック・ディレイ（DELAYブロック）

ダイナミック・ディレイは、名機TC2290ではじめて搭載された機能で、ディレイの出力レベルを入力レベルのダイナミクスに連動させます。演奏中は原音をクリアに聞かせ、演奏していない時点でディレイ成分をより明確に聞かせることができます。

Dly - ディレイ・タイム
レンジ：0～1800ms
ディレイ成分の間隔を指定します。

Tempo - テンポ
設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）
グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

FB - フィードバック
設定レンジ：0～100%
リピートの回数を指定します。

FBHCut - フィードバック・ハイカット
設定レンジ：2.00kHz～17.8kHz／OFF
指定周波数を超える周波数のレベルを落とします。

FBLCut - フィードバック・ローカット
設定レンジ：OFF、22.39Hz～2.00kHz
指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。

Offset - オフセット
設定レンジ：0～200ms
片チャンネルのディレイ成分のタイムをオフセットします。左右チャンネルのディレイ・タイムは、異なる方がよりワイドなディレイ効果を得られます。数ミリ秒でワイド感が得られ、それ以上の設定時では、スラップ・バック効果など聴感上異なる効果が得られます。

Sense - センシティビティ
レンジ：-50～0dB
ダイナミック・ディレイは、入力が特定のレベルを超えた際に、ディレイの出力を特定のレベルだけ落とす、ダッキングの一種です。センシティビティは、ダイナミック・ディレイの感度を指定します。

Damp - 最大ダンピング
レンジ：0dB～100dB
信号をアッテネートする強さを設定します。

Rel - リリース
レンジ：20ms／30ms／50ms／70ms／100ms／140ms／200ms／300ms／500ms／700ms／1 sec.
ダイナミック・ディレイによるダッキングが終了する際に、通常に戻るまでの時間を設定します。

Mix - ミックス
設定レンジ：0～100%
ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル
設定レンジ：-100dB～0dB
このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

DUAL DELAY - デュアル・ディレイ（DELAYブロック）

デュアル・ディレイは、2つのディレイを同時に動作させる機能です。別の言い方をすれば、それぞれ別のパラメータ設定をもつ2つのディレイ装置を並列につないだのと同じです。

ディレイ・ライン1しか使用しないときは、通常のモノ・ディレイと同じです。

Dly1 - ディレイ・タイム1
設定レンジ：0～1800ms
ディレイ・ライン1の間隔を指定します。

Dly2 - ディレイ・タイム2
設定レンジ：0～1800ms
ディレイ・ライン2の間隔を指定します。

Tempo 1 - テンポ1
設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）
グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

Tempo 2 - テンポ2
設定レンジ：Ignored（無視）／1～1/32（T/D）
グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。

Tempo をIgnored 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

FB1 - フィードバック1
設定レンジ：0～100%
ディレイ・ライン1のリピート回数を指定します。

FB2 - フィードバック2
設定レンジ：0～100%
ディレイ・ライン2のリピート回数を指定します。

FBHCut - フィードバック・ハイカット
設定レンジ：2.00kHz～17.8kHz／OFF
指定周波数を超える周波数のレベルを落とします。

FBLCut - フィードバック・ローカット
設定レンジ：OFF、22.39Hz～2.00kHz
指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。

Pan1 - パン1
設定レンジ：50L～50R
ディレイ・ライン1のパンニング位置を指定します。

Pan2 - パン2
設定レンジ：50L～50R
ディレイ・ライン2のパンニング位置を指定します。

Mix - ミックス
設定レンジ：0～100%
ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル
設定レンジ：-100dB～0dB
このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

DETUNE - ディチューン（PITCHブロック）

ディチューンは、入力から、指定したセント数だけ音程をずらします（100セント＝1半音）。効果はコーラスに近いものですが、大きな違いは、ディチューンの場合はその量が一定であることです。ピッチ・ブロックのディチューン・アルゴリズムは2つのヴォイスを搭載します。サウンドが「直接的」過ぎると感じる時は、たとえばVoice Lに+2セント、Voice Rに-3セント、といった具合に、設定値を数セントずつずらしてみてください。ヴォイス毎に少量のディレイを与えることもできます。

Voice L - ヴォイスL
設定レンジ：-100～100セント
左チャンネルの、ディチューン量を指定します。

Voice R - ヴォイスR
設定レンジ：-100～100セント
右チャンネルの、ディチューン量を指定します。

Dly L - ディレイL
設定レンジ：0～50ms
左チャンネルに与えるディレイの量を指定します。

Dly R - ディレイR
設定レンジ：0～50ms
右チャンネルに与えるディレイの量を指定します。

Mix - ミックス
設定レンジ：0～100%
ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル
設定レンジ：-100dB～0dB
このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

WHAMMY - ワーミー（PITCHブロック）

外部コントローラー・ペダルを使って音程をコントロールできます。このアルゴリズムを使用する場合、外部コントローラからの操作が前提となります。接続する外部コントローラーの設定については、26～28ページの解説をご参照ください。

Pitch - ピッチ
設定レンジ：0～100%
元の信号と処理信号のミックス比を設定します。たとえば100%に設定すると、ギターの元音は聞こえず、ピッチ音の変化した処理音のみが聞こえるようになります（接続形態がシリアルとセミ・パラレルの場合のみ）。

Dir - 方向
設定レンジ：Up／Down
ペダルを踏み込んだ時にピッチを上げるか下げるかを設定します。

Range - レンジ
設定レンジ：1-Oct／2-Oct
音程変更の上下幅を指定します。極端な効果には2-Octを、一般的なワーミー効果には1-Octを選択します。

OutLev - 出力レベル
設定レンジ：-100dB～0dB
このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

OCTAVER - オクターバー（PITCHブロック）

オクターバーは、原音にオクターブ音程をずらした音を加えます。

Dir - ディレクション（方向）

設定レンジ：UP／DOWN

原音に対してのオクターバーの音程を、上下で指定します。

Range - レンジ

設定レンジ：1 oct／2 oct

原音に対してのオクターブ差を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

SHIFTER - ピッチ・シフター（PITCHブロック）

ピッチ・シフターは、信号に特定の音程をずらした音を加えます。G•MAJORのピッチ・シフターは、原音に対して2ヴォイス分、それぞれ最大1オクターブずらした音を加えられます。G•MAJORの処理速度は、ピッチ検出にかかる遅延を気にすることなく使用でき、かつてのオクターバーと比べ物にならないほど高速です。たとえば、1つのヴォイスを-1200セント下げてみてください（100セント＝半音）。ミックス・レベルを100にすれば、ベースのシミュレーションになります。

Voice 1&2 - ヴォイス1&2

設定レンジ：-1200～1200セント

各ヴォイスの、ピッチ・シフト量を指定します。100セントは半音なので、入力ピッチの1オクターブ下から1オクターブ上まで音程を指定できます。

Pan 1&2 - パン1&2

設定レンジ：50L～50R

各ヴォイスのパンニング位置を指定します。

Dly 1&2 - ディレイ1&2

設定レンジ：0～350ms

各ヴォイスのディレイ・タイムです。

FB 1&2 - フィードバック1&2

設定レンジ：0～100%

各ヴォイスにおけるディレイ成分のリピート回数を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

SPRING - スプリング（REVERB ブロック）

ヴィンテージのギターアンプなどに内蔵される、往年のスプリング・リバーブのサウンドを再現します。

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.1 ～ 20s

リバーブ・テール（余韻成分）の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブ・テールがおよそ60dB減衰する時間として定義されます。

PreDly - プリディレイ

設定レンジ：0～100ms

原音とリバーブ・テールの間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない用に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ：Round／Curved／Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ：Box／Tiny／Small／Med／Large／XL／Grand／Huge

初期反射音の聴感的な大きさを定義します。リバーブは、初期反射音と、拡散後の余韻成分の二つで構成されます。デジタル・リバーブでは、初期反射音が空間の形状とサイズを規定します。余韻成分は通常、リバーブないしリバーブ・テールと呼ばれているものです。余韻成分が減衰するまでの時間は、初期反射音に比べて長くなります。

HiCOL - ハイ・カラー

設定レンジ：Wool／Warm／Real／Clear／Bright／Crisp／Glass

7種類のHi Colorが選択できます。Hi Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

HiFact - ハイ・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したHi Colorタイプを加算または減算します。

LoCol - ロー・カラー

設定レンジ：Thick／Round／Real／Light／Tight／Thin／NoBass

7種類のLo Colorが選択できます。Lo Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

LoFact - ロー・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したLo Colorタイプを加算または減算します。

RoomLv - ルーム・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

リバーブ・テールのレベルを調節します。リバーブ・レベルを下げると初期反射パターンがより目立つ様になり、アンビエントなサウンドになります。

RevLev - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

初期反射音のレベルです。

Diffus - ディフューズ（拡散）

設定レンジ：-25～25

リバーブ・テールの密度を微調整します。Decay（減衰時間）を設定すると、このパラメータは自動的に設定され、減衰音のフラッター効果が低減されます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Outlev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

HALL - ホール（REVERBブロック）

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.1～20s

リバーブ・テール（余韻成分）の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブ・テールがおよそ60dB減衰する時間として定義されます。

PreDly - プリディレイ

設定レンジ：0～100ms

原音とリバーブ・テールの間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない用に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ：Round／Curved／Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ：Box／Tiny／Small／Med／Large／XL／Grand／Huge

初期反射音の聴感的な大きさを定義します。リバーブは、初期反射音と、拡散後の余韻成分の二つで構成されます。デジタル・リバーブでは、初期反射音が空間の形状とサイズを規定します。余韻成分は通常、リバーブないしリバーブ・テールと呼ばれているものです。余韻成分が減衰するまでの時間は、初期反射音に比べて長くなります。

HiCOL - ハイ・カラー

設定レンジ：Wool／Warm／Real／Clear／Bright／Crisp／Glass

7種類のHi Colorが選択できます。Hi Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

HiFact - ハイ・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したHi Colorタイプを加算または減算します。

LoCol - ロー・カラー

設定レンジ：Thick／Round／Real／Light／Tight／Thin／NoBass

7種類のLo Colorが選択できます。Lo Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

LoFact - ロー・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したLo Colorタイプを加算または減算します。

RoomLv - ルーム・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

リバーブ・テールのレベルを調節します。リバーブ・レベルを下げると初期反射パターンがより目立つ様になり、アンビエントなサウンドになります。

RevLev - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

初期反射音のレベルです。

Diffus - ディフューズ（拡散）

設定レンジ：-25～25

リバーブ・テールの密度を微調整します。Decay（減衰時間）を設定すると、このパラメータは自動的に設定され、減衰音のフラッター効果が低減されます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Outlev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

ROOM - ルーム（REVERB ブロック）

Decay - ディケイ

設定レンジ： 0.1 ～ 20s

リバーブ・テール（余韻成分）の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブ・テールがおよそ60dB減衰する時間として定義されます。

PreDly - プリディレイ

設定レンジ： 0～100ms

原音とリバーブ・テールの間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない用に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ： Round／Curved／Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ： Box／Tiny／Small／Med／Large／XL／Grand／Huge

初期反射音の聴感的な大きさを定義します。リバーブは、初期反射音と、拡散後の余韻成分の二つで構成されます。デジタル・リバーブでは、初期反射音が空間の形状とサイズを規定します。余韻成分は通常、リバーブないしリバーブ・テールと呼ばれているものです。余韻成分が減衰するまでの時間は、初期反射音に比べて長くなります。

HiCOL - ハイ・カラー

設定レンジ： Wool／Warm／Real／Clear／Bright／Crisp／Glass

7種類のHi Colorが選択できます。Hi Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

HiFact - ハイ・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したHi Colorタイプを加算または減算します。

LoCol - ロー・カラー

設定レンジ： Thick／Round／Real／Light／Tight／Thin／NoBass

7種類のLo Colorが選択できます。Lo Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

LoFact - ロー・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したLo Colorタイプを加算または減算します。

RoomLv - ルーム・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

リバーブ・テールのレベルを調節します。リバーブ・レベルを下げると初期反射パターンがより目立つ様になり、アンビエントなサウンドになります。

RevLev - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

初期反射音のレベルです。

Diffus - ディフューズ（拡散）

設定レンジ：-25～25

リバーブ・テールの密度を微調整します。Decay（減衰時間）を設定すると、このパラメータは自動的に設定され、減衰音のフラッター効果が低減されます。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Outlev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

PLATE - プレート（REVERBブロック）

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.1～20s

リバーブ・テール（余韻成分）の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブ・テールがおよそ60dB減衰する時間として定義されます。

PreDly - プリディレイ

設定レンジ：0～100ms

原音とリバーブ・テールの間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない用に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ：Round／Curved／Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ：Box／Tiny／Small／Med／Large／XL／Grand／Huge

初期反射音の聴感的な大きさを定義します。リバーブは、初期反射音と、拡散後の余韻成分の二つで構成されます。デジタル・リバーブでは、初期反射音が空間の形状とサイズを規定します。余韻成分は通常、リバーブないしリバーブ・テールと呼ばれているものです。余韻成分が減衰するまでの時間は、初期反射音に比べて長くなります。

HiCOL - ハイ・カラー

設定レンジ：Wool／Warm／Real／Clear／Bright／Crisp／Glass

7種類のHi Colorが選択できます。Hi Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

HiFact - ハイ・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したHi Colorタイプを加算または減算します。

LoCol - ロー・カラー

設定レンジ：Thick／Round／Real／Light／Tight／Thin／NoBass

7種類のLo Colorが選択できます。Lo Factorのパラメータを+20に設定し、7種類の音色を聞き比べてみてください。

LoFact - ロー・ファクター

設定レンジ：-25～25

選択したLo Colorタイプを加算または減算します。

RoomLv - ルーム・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

リバーブ・テールのレベルを調節します。リバーブ・レベルを下げると初期反射パターンがより目立つ様になり、アンビエントなサウンドになります。

RevLev - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100～0 dB

初期反射音のレベルです。

Diffus - ディフューズ（拡散）

設定レンジ：-25～25

リバーブ・テールの密度を微調整します。Decay（減衰時間）を設定すると、このパラメータは自動的に設定され、減衰音のフラッター効果が低減されます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0～100%

ダイレクト音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Outlev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB～0dB

このブロックの全体的な出力レベルを指定します。

付録 安全のために

本体を接続する前に、必ず本ページの指示に従って配線を行って下さい。本マニュアルは、本機をご使用の際に必ず参照できる場所に保管し、本ページの注意事項に従った環境でご使用ください。

正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して有害な高電圧の電気ショックを与えうる部品が本体内部に配置されていることを示します。

正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、及びサービス／メインテナンス上で、重要な情報が製品に同梱されている取扱説明書に含まれていることを示します。

ご注意

- 雨の中や、湿度の高い場所での保管・使用はお避けください。人体に対して有害な高電圧の電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 本体を開けないで下さい。人体に対して有害な高電圧の電気ショックを与えうる部品がございます。
- 本体は、必ずアースを配線した上でご使用ください。
- ご使用の際には、本体に同梱されている電源ケーブルを使用し、かならずアースを接続した上で、適切な電源プラグに接続してください。
- 本体をご使用の地域により、適切な電源ケーブルは異なります。本体をご購入と別の地域でご使用になられる場合で適切なケーブルがわからない場合は、各国のTCエレクトロニック支社あるいは輸入販売代理店までご連絡ください。
- 日本以外の地域で本機をご使用の場合は、次の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルをご使用ください。

Voltage	**Line plug according to standard.**
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and un-switched socket outlets.

- 発熱・発火などの恐れがありますので、本機は、上下にスペースを確保した、空調されているラックに設置してください。
- 本機は、瞬時に電源ケーブルを抜き差しできる設置・配線を行ってください。
- 発熱・発火などの恐れがありますので、本機は、ラジエーター／音響用パワー・アンプリファイア／暖房器具等、また上記に限定されないあらゆる熱を発する機器の影響を受けない場所に設置してください。
- ツアーラック内に本機を設置する場合、フロントパネルのネジとは別に、背面も固定してご使用下さい。
- 本体の手入れには、柔らかい布で乾拭きします。本体に付着している埃等が、本体にキズをつける原因となる場合がございますので、ご注意ください。
- 電源ケーブルを接続の際には、必ず電源の極性を揃えてご使用下さい。極性を間違えますと、誤動作や事故の原因となる場合がございます。ご使用環境での電源プラグの極性がわからない場合は、最寄りの認定電気工事業者にご相談ください。
- 本機に同梱されている電源ケーブルを抜き差しされる際は、ケーブルを直接引っ張らないでください。内部断線等、破損の原因となります。破損ケーブルのご使用は、発火等重大な事故の原因となる場合があります。
- 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用されない場合は、本機の電源ケーブルを壁面の電源プラグから抜いてください。
- 本機にショックを与えたり、圧力をかけたりしないでください。故障の原因となる場合がございます。

付録 安全のために

サービスについて

次の場合は、必ずTCエレクトロニック日本支社までご連絡頂き、TCエレクトロニック認定サービスセンターで点検・修理を行って下さい。

- 付属の電源ケーブルの破損等により、本体が破損した場合
- 雨や過度の湿度にさらしたり、液体を本体にこぼした場合
- 本体シャーシ内に異物が入ってしまった場合
- 本体の動作異常が生じた場合
- 本体を落とした場合

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B Digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules.
These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installations. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

The user may find the following booklet, prepared by the Federal Communications Commission, helpful:
"How to identify and Resolve Radio/TV interference Problems."
This booklet is available from the US. Government Printing Office, Washington, DC 20402, Stock No. 004-000-0034-4.

Caution:
You are cautioned that any change or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

For the customers in Canada:
This Class B Digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations (ICES-003). Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Réglement sur le matériel brouilleur du Canada.

Certificate Of Conformity
TC Electronic A/S, Sindalsvej 34, 8240 Risskov, Denmark, hereby declares on own responsibility that following product:

G•Major - Guitar Processor

- that is covered by this certificate and marked with CE-label conforms with following standards:

EN 60065 (IEC 60065)	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use
EN 55103-1	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 1: Emission.
EN 55103-2	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 2: Immunity.

With reference to regulations in following directives:
73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, January 2001

Anders Fauerskov
Chief Executive Officer

付録 MIDIインプレメンテーション・チャート

G•MAJOR - GUITAR EFFECTS PROCESSOR

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1	1	
	Changed	1-16	1-16	
Mode	Default			
	Messages	X	X	
	Altered			
Note Number		X	X	
	True Voice	X	X	
Velocity	Note ON	X	X	
	Note OFF	X	X	
After Touch	Key's	X	X	
	Ch's	X	X	
Pitch Bend		X	X	
Control Change	System			
	Parameters	from 1-128	from 1-128	
	Bank Select:			
	Ctrl 32	1= User Bank	0= Factory Bank	
Prog Change		O	O	
System Excl.		O	O	
Common	Song Pos	X	X	
	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
System real time	Clock	X	O	
	Commands	X	X	
Aux Messages	Local ON/OFF	X	X	
	All Notes OFF	X	X	
	Active Sense	X	X	
	Reset	X	X	
Clock		Not recognized		

O:YES
X:NO

Mode 1: OMNI ON, POLY
Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 3: OMNI OFF, POLY
Mode 4: OMNI OFF, MONO

付録 仕様及び性能

デジタル入出力

コネクター	RCA フォン（S/PDIF）
フォーマット	S/PDIF (24 ビット)、EIAJ CP-340、IEC 958
出力ディザリング	HPF/TPDF ディザー 24/20/16/8 ビット
サンプリングレート	44.1 kHz、48 kHz
処理遅延	0.1 ms @ 48 kHz
周波数特性（デジタル I/O）	DC 〜 23.9 kHz ± 0.01 dB @ 48 kHz

アナログ入力

コネクター	1/4 インチフォーンジャック、バランス
インピーダンス	21 kOhm（バランス）／13 kOhm（アンバランス）
最大入力レベル	+24 dBu
0dBFS 到達最小レベル	0 dBu
入力感度 @ 12 dB ヘッドルーム	-12 dBu 〜 +12 dBu
A/D 変換	24 ビット、 128 x オーバーサンプリング・ビットストリーム
A/D 変換遅延	0.65 ms @ 48 kHz、0.70 ms @ 44.1 kHz
ダイナミックレンジ	100 dB typ、20Hz 〜 20 kHz
THD	typ < 92 dB (0.0025 %) @ 1 kHz
周波数特性	20 Hz 〜 20 kHz: +0/-0.1 dB @ 48 kHz
クロストーク	<-95 dB、20 Hz 〜 20 kHz

アナログ出力

コネクター	1/4 インチフォーンジャック、バランス
インピーダンス、 バランス／アンバランス	40 Ohm
最大出力レベル	+20 dBu（バランス）
出力レンジ	バランス： 20/14/8/2 dBu アンバランス： 14/8/2 dBu
D/A 変換	24 ビット、 128 x オーバーサンプリング・ビットストリーム
D/A 変換遅延	0.63 ms @ 48 kHz、0.68 ms @ 44.1 kHz
ダイナミックレンジ	104 dB typ、20 Hz 〜 20 kHz
THD	typ <-94 dB (0.002 %) @ 1 kHz、+20 dBu 出力
周波数特性	20 Hz 〜 20 kHz、+0/-0.5 dB @ 48 kHz
クロストーク	<-100 dB、20 Hz 〜 20 kHz

EMC

準拠規格	EN 55103-1、EN 55103-2 FCC part 15 Class B、CISPR 22 Class B

安全

準拠規格	IEC 65、EN 60065、UL6500、CSA E65

環境

動作環境温度	0° C 〜 50° C（32° F 〜 122° F）
保存環境温度	-30° C 〜 70° C（-22° F 〜 167° F）
湿度	最大 90%（結露状態を除く）

コントロール・インターフェイス

MIDI	In/Out/Thru: 5 ピン DIN
ペダル	1/4 インチフォーンジャック
リレー・クロージャー	1/4 インチフォーンジャック

一般

仕上げ	アノダイズドアルミニウムフェイスフロント、 スティールシャーシ
ディスプレイ	23 キャラクター／280 アイコン STN-LCD 画面
寸法	483 x 44 x 195 mm（19" x 1.75" x 8.2"）
重量	1.85 kg（4.1 lb.）
電源電圧	100 〜 240 VAC、50／60 Hz（自動切替）
消費電力	<15 W

- 製品の仕様・外観等は、予告なく変更することがございます。あらかじめご了承ください。
- 記載情報は情報提供を目的とするもので、特定の用途や使用環境に対する保証を行うものではありません。
- 本マニュアルに掲載の商品名・社名等は、各社の商標あるいは登録商標です。

付録 プリセット・リスト

1 G-Major Verb & Slap
2 FilterReverb
3 Sheryls Sound
4 Tremolo Pedal Speed
5 So Scho
6 Scotty's Blues
7 Straight Lead
8 Funky Thang
9 Right On The Edge
10 Bluebox Echo's
11 Sparkle
12 Pan Chorus
13 Clean Cowboy
14 Cowboy Slap
15 The Good, Bad & Ugly
16 Rockabilly Slap
17 All That Lee
18 A Bit Of Chet A
19 Shadows Of H. Marvin
20 Filtered Slap Delay
21 Straight Slap Dly
22 Subtle Lead Fx's
23 Chorused Lead
24 Chorus & Dyn Dly
25 T Petty Chorus
26 Jazz Ballad
27 Wide Chorus
28 Wes M Jazz Lead
29 Funky Music Verb
30 Rock'n Roll Spring
31 Rev Amb
32 TightVerb
33 SpreadVerb
34 Small Room
35 Dly Doubler
36 Clean,Comp,Chorus'd
37 Comp'n Detune
38 Blues Lead
39 Blues Room
40 Blues Rhythm
41 Subtle Acoustic
42 For Acoustic Guitar
43 Finger Picking
44 Crunch My Phaser
45 Jimmmy H
46 Phaser Pedal
47 Pedal Vibe
48 Pedal Leslie
49 Vibra Room
50 Phat Phaser
51 Lush Chorus
52 Formerly Known As?
53 Swell Delays
54 Wet Delays
55 Clean Verb & Dly
56 Tape Flange & Delay
57 Lone Flanger
58 Phasing Repeats
59 Funky Chicken
60 Funky Octaver
61 Filter Fun
62 Lazy Filter
63 Auto Filter
64 Far Away Vibrato
65 What a Bright Kid
66 Octave Dubber
67 2 Oct Whammy up
68 1 Oct Whammy up
69 Oct Up
70 Whammy 2 Semi Down
71 Octave
72 OctaWah
73 Synth Guitar
74 Deep Bass
75 Bend Up Slaps
76 Rich Dual Delay
77 Phaser Room
78 Hard Tremolo
79 Detune
80 Ping Pong
81 Slapback Delay
82 Straight Tremolo
83 Flanged Tremolo
84 Big Chicken
85 Pedal Filter
86 Chopped Steppers
87 Locked In Vibrato
88 Chopper
89 UnconciousPedal
90 Synthesized
91 Machine
92 Skysaw Guitar
93 Synthesized Leads
94 Sus4 Dreamscape
95 Arpegiator
96 Infinity & Beyond
97 Bass Comp
98 Bass Chorus
99 Bass Autofilter
100 To Be Continued...